

# 微笑みの国「タイ」における 日本留学事情と日本語教育

在タイ日本国大使館書記官 俵幸嗣<sup>1</sup>

TAWARA Koji

キーワード： タイ、日本留学、日本語教育

## 1. はじめに

大きなビルやマンションがどんどん建設され、日本車がガンガン走り、失業率が1%を切り、現在のバンコクは活気にあふれている<sup>2</sup>。

また、街には日本レストランが数え切れないほど存在し、5万人の日本人が生活し<sup>3</sup>、5,000を超えるとも言われている日系企業(バンコク日本人商工会議所の会員企業は約1500社)で多くのタイ人の従業員が活躍している<sup>4</sup>。日本への観光も急増し2012年は過去最高の26万人を記録している。2013年7月1日からタイ人の短期滞在者(15日間)への査証が免除されることとなり、日本への旅行者がますます増えている。

筆者は、タイの日本国大使館に勤務するようになり、1年半が経過しようとしているが、当初は、これほどまでに、日本とタイとの友好関係が深く緊密で、お互いに思いやれる関係にあるとは知らず、親日的なタイの人々の温かさに触れて、長い時間をかけて築かれたこうした関係をずっと続けていかないといけないと感じている。

中でも、元日本留学生の存在は大きく、タイ王国元日本留学生協会<sup>5</sup>のほか、大学、日系企業、政府関係機関など、要職について活躍している人が多いことに驚かされる。

<sup>1</sup> 本稿における見解は在タイ日本国大使館の見解ではなく、あくまで筆者個人の見解である。

<sup>2</sup> 国立統計局の発表によれば、タイにおける2013年6月の完全失業率は0.5%。2012年のタイの経済成長率は6.5%。8月に発表された2013年の経済成長率予測は3.8~4.2%(タイ国家経済社会開発委員会)。輸出額・輸入額・民間投資・民間消費の伸び率が鈍り、4.2~5.2%から下方修正されているが、生活している限りではその影響はまだ感じられない。

賃金については、インラック首相の政策により、2012年4月にバンコクを含む7県において1日あたりの最低賃金が215バーツ(645円=1バーツ3円で計算。以下同じ。)から300バーツ(900円)に引き上げられた。2013年1月に残る70県でも同様の措置がされた。2012年1月から大卒公務員の初任給が、8700バーツ(26,100円)から15000バーツ(45,000円)に引き上げられている。

<sup>3</sup> 2011年のタイ国内の届け出のある在留法人数は49,983人。2002年(25,329人)の約2倍になっている。

<sup>4</sup> タイと日本の貿易関係について、2011年の数値で、日本への輸出の割合は10.5%(中国に次いで第2位)。日本からの輸入の割合は18.5%(第1位)。

<sup>5</sup> タイ王国元日本留学生協会(Old Japan Students' Association, Thailand (OJSAT))は、1951年9月15日に世界で最初に設立された元日本留学生会であり、傘下に11の同窓会を擁し、タイ国全米大学同窓会(American University Alumni Association(AUAA))、英国元留学生協会(Old England Students Association(OESA))、欧州元留学生会(Association of Old Continental Europe Students(AOCES))とともに国王後援の元留学生会として、タイにおける四大元留学生会の一つとされている。タイ王国元日本留学生協会は、会員の相互交流のみならず、タイ国日本人会や盤谷日本人商工会議所との交流活動、日本国大使館等との共催による日本語弁論大会の実施、国際交流基金が実施する日本語能力試験や日本学生支援機構が実施する日本留学フェア等への協力、日本語学校の運営など様々な活動を行っている。タイにおける元日本留学生のネットワークの中心となっている。会員資格は日本に1年以上留学したものであり、会員数は約3,000人。

筆者は、日本国大使館において、日本政府奨学金留学生の選考を担当しているが、面接において、優れた能力、高い意欲、純粋な心を持ったタイ人の学生らと接し、日本で勉強したいと思っている、できるだけ多くのタイ人が日本の大学で勉強するチャンスをつかんで欲しいと、心から思うのである。

日本政府は、2008年に「留学生30万人計画」を策定し、2020年までに留学生の受け入れ30万人(2012年14万人)、併せて日本人留学生を12万人(2012年6万人)に倍増させることを目指している。2013年度には、福井工業大学、明治大学、東海大学、秋田大学、宮崎大学がタイに新たなオフィスを開設するなど、常駐者がいないところも含めると23の大学(常駐者がいる大学は12)がタイにオフィスを設け、タイやASEAN諸国との学術交流に積極的に取り組んでいる。また、地方自治体は、2013年度に12の自治体の知事・副知事の方々がタイを訪問して、観光や食のプロモーション、商談会などトップセールスを展開するほか、留学フェアにも参加するなど、タイとの関係を強めている。

他方、タイの留学事情について、十分に情報提供ができていないところがあり、本稿において、筆者が1年半の勤務で得た知識や経験したことを踏まえて、タイにおける最近の日本留学事情や日本語教育の現状について、レポートすることとしたい。

## 2. タイの教育

### (1) タイの教育制度・行政体制

タイの教育制度は、原則として、日本と同様、6年間の初等教育、3年間の前期中等教育、3年間の後期中等教育、4年間の高等教育という6-3-3-4制を採用している。1990年に義務教育期間の6年から9年への延長が閣議決定され(法制化は1999年の国家教育法(National Education Act)による)、初等教育及び前期中等教育が義務教育とされている。

国家教育法は、教育改革を加速化するための法制度の必要性から、1999年に首相府国家教育委員会(NEC(National Education Commission))を中心に、丸2年かけて制定された<sup>6</sup>。国家教育法においては、①学校教育の基本を教師中心から学習者中心に転換すること、②大胆に学制改革を推進し、義務教育の6年から9年への延長<sup>7</sup>と基礎教育を12年間としてこの期間を無償とすること、③教育の「地方分権化」を促進すること、④教育水準と教育の質的保証を諮ること、⑤教員養成改革を行うこと、の5点が主な内容とされている。

2002年10月の中央省庁再編により、教育政策に関する基本的事項を調査・審議してきた首相府国家教育委員会、初等中等教育機関や地域総合大学等を所管してきた教育省、高等教育機関を所管してきた大学庁の3省庁が教育省に統合された。

<sup>6</sup> 1999年の国家教育法の制定について、「堀内孜『タイ国における教育職員免許制度』2009年京都教育大学紀要」を参照して引用した。

<sup>7</sup> 義務教育法制化の背景として、貧困農村地域を中心に初等教育高学年でのドロップアウトや低学年を中心にした留年率が課題とされていたが、国民の教育意欲の高まりによって、1990年代を通して、中等教育への進学率が高まった(1990年の53%から1998年の91%へ。)ことが挙げられている。(同堀内孜『タイ国における教育職員免許制度』)

教育省には、教育大臣をトップに、大臣を補佐する副大臣、大臣政務官、事務次官が置かれるとともに、内部部局として次官官房、国家教育審議会事務局、基礎教育委員会事務局、高等教育委員会事務局、職業教育委員会事務局の5局が置かれている。地方レベルでは、高等教育を除くすべての教育機関を所管する175（当時）の教育事業地区を設置して一元化した<sup>8</sup>。

日本では、国、都道府県、市町村が学校の種類に応じてそれぞれ学校の設置・管理等を行っているが、タイの教育行政は中央集権的であり国レベルで教育省がほぼ一元的に学校の設置・管理等（私立学校については認可）を行っている。したがって、タイには公立学校はなく、学校は原則として国立学校または私立学校である（バンコク都は学校を設置・管理している）。

2012年度の教育予算は、4,455億2,750万バーツであり、前年度比5.5%増と増加している。国内総生産（GDP）に占める教育予算の割合は3.8%、政府予算全体に占める教育予算の割合は18.7%となっている。

タイの教育予算は、2004年度に比べると約2倍になっている。この間、政府予算全体に占める教育予算の割合は、政治的に不安定な状況の中でも、概ね20%を維持してきており、教育予算の確保に努力がされていることが伺える。

年度	教育予算 (百万バーツ)	対前年比増減 (%)	GDPに占める割合 (%)	政府予算全体 に占める割合 (%)
1998年度	226,609.8	5.3	3.9	23.1
1999年度	208,614.1	-7.9	3.7	25.3
2000年度	221,051.1	6.0	4.1	25.7
2001年度	221,591.5	0.2	4.3	24.4
2002年度	222,940.4	0.6	4.0	21.8
2003年度	235,444.4	5.6	4.1	23.5
2004年度	251,233.6	6.7	4.0	24.4
2005年度	262,938.3	4.7	3.7	21.9
2006年度	294,954.9	12.2	3.7	21.7
2007年度	355,241.1	20.4	4.2	22.7
2008年度	364,634.2	2.6	3.9	22.0
2009年度	419,233.2	15.0	4.1	21.8
2010年度	379,124.8	-9.6	3.79	22.3
2011年度	422,239.9	11.4	3.96	20.4
2012年度	445,527.5	5.5	3.8	18.7
2013年度	493,927.1	10.8	-	20.6

<sup>8</sup>地区の委員会は、地域住民や親の代表者を含む各界の代表者によって構成され、基礎教育機関の設置や廃止、管理・監督をはじめ広範な権限が与えられることとなった。（同堀内孜『タイ国における教育職員免許制度』）

2014年度	518,568.4	5.0	-	20.5
--------	-----------	-----	---	------

出所：教育省「2011 Educational Statistics in Brief」

2013・2014年度はタイ政府予算担当者から聴取

現在の学校の就学状況は、2011年のタイ教育省の調査によれば、在学率でみると、就学前教育 76.8%、初等教育 103.5%、前期中等教育 98.43%、後期中等教育 72.18%、高等教育 47.18%となっている<sup>9</sup>。

また、小学校、中学校、高等学校、高等教育のいずれの段階においても、国立の学校に通う学生等の数が、8割に達しており、国立の比重が高くなっている。

【タイにおける幼児、児童、生徒数】

区分	国立	私立	計
幼稚園	1,222,262 (67%)	591,276 (33%)	1,813,538
小学校	4,010,832 (80%)	981,003 (20%)	4,991,835
中学校	2,308,931 (87%)	353,339 (13%)	2,662,270
高等学校	1,692,121 (80%)	417,752 (20%)	2,109,873
高等教育	2,011,353 (85%)	365,866 (15%)	2,377,219

2011年現在 ( ) 内は国立・私立の在学比率

出所：教育省「2011 Educational Statistics in Brief」

## (2) タイの高等教育

### ①タイの高等教育の現状

タイにおいては、高等教育を行う教育機関として、日本と同様、原則として4年間（医学・薬学・建築学・教育学等は、5～6年間）の学部教育、それに続く大学院教育を行う大学が設置されている。

タイの教育省が管轄している大学は、1917年に設立されたチュラロンコン大学を始めとする一般的な大学のほか、「地域総合大学」（旧教員養成大学。Rajabhat University）、「工科専門大学」（Rajamangala University of Technology）などがある。

一般的な大学については、戦前までチュラロンコン大学のほか、タマサート大学（1934年設立）、マヒドン大学（1943年設立）、カセサート大学（1943年設立）、タイ商工会議所大学（1940年設立。タイで最初の私立大学）などわずか数校であったが、戦後、高等教育の普及を図るため、多くの大学が設立されるようになった。特に1990年代以降、高等教育への進学率の上昇に伴い大学数が急速に増加しており、2012年現在、高等教育機関は171校となっている。その内訳は、国立の大学が80校、コミュニティ・カレッジが20

<sup>9</sup>タイでは、少子高齢化が急速に進展しており、合計特殊出生率は、2005-10年の時点で1.49となっている（国連統計。同期間、日本1.34、米国2.06、中国1.63。）。65歳以上の人口の割合は、2001年の7%から2023年には14%に達すると予想されている。

校、私立の高等教育機関が71校である<sup>10, 11</sup>。

国立の大学については、総合大学が29校（うち15校が法人化<sup>12</sup>(Autonomus大学)）、地域総合大学が40校、ラチャモンコン工科大学が9校、無試験で入れるオープン大学2校となっている。

地域総合大学は、1892年以降に全国に設置された師範学校（1975年に教員養成大学）を前身として、1995年、経済発展など社会の変化に対応し、地域の人材育成のニーズに応えるため、それまでの教育学部のみを単科大学から人文社会学部、理工学部、経営学部等を備えた地域の総合大学に転換が図られた。

工科専門大学は、1975年に設置された職業技術学校を前身としており、タイの工業化の進展に伴って必要とされる高度な技術の修得・研究を行うことを目的としている。2005年に全国に39校あった職業技術学校が9校に統合され、ラチャモンコン工科大学に昇格した。

オープン大学は、ラムカムヘン大学とスコータイ・タマティラート大学の2校が設置されている。2013年度には、ラムカムヘン大学に330,205人、スコータイ・タマティラート大学に126,293人の学生が在籍しており、タイにおける高等教育の在学率(47.18%、2011年)を支えている。

コミュニティカレッジは、大学がない地域の学生や教育費が十分に支払えない学生でも高等教育を受けられるように設置された。1977年に最初のコミュニティカレッジがブーケットに設立されて以来、1994年には77の特別学校がカレッジに移行するなどしたが1996年に一度廃止されている。2002年に10校が認可されて再スタートし、2012年現在で、20校（1校約200名）が開講している。コミュニティカレッジの卒業生は準学士(Associate Degree)の学位が得られる。

## ②タイの高等教育政策

タイの高等教育の役割は、1990年代以降の大学数や進学率の増加に伴い、エリート養成から変化してきている。

タイの教育省によれば、高等教育機関の数の拡大については、近年抑制的に対応<sup>13</sup>し、

<sup>10</sup> 英国の高等教育情報機関のQS社(Quacquarelli Symonds Limited)が発表しているアジア大学ランキングの2013年版においては、タイの大学からは、チュラロンコン大学(アジア48位)、チェンマイ大学(アジア98位)、タマサート大学(アジア107位)、プリンスオブソクラー大学(アジア146位)、コンケン大学(163位)、キングモンクット王工科大学トンブリ校(アジア164位)、カセサート大学(アジア174位)、ブラパー大学(アジア191位)、キングモンクット王工科大学ラカパン校(アジア264位)、シーナカリンウィロート大学(アジア284位)がアジアの大学の300位以内にランキングされている。なお、同アジア大学ランキングでは、東京大学9位、京都大学10位、東京工業大学13位、大阪大学15位、東北大学17位、名古屋大学18位、九州大学20位などとされている。

<sup>11</sup> 日本の高等教育機関は、2013年5月1日現在で、大学765(国立86、公立83、私立606)、短期大学359(公立17、私立342)、高等専門学校57(国立51、公立3、私立3)となっている。

<sup>12</sup> タイでは教育研究、予算、人事など、より柔軟な大学運営が行えるように、1999年の国家教育法を契機に法人化が制度化された。現在は15校が法人化され、例えば、キングモンクット王工科大学トンブリ校では、授業料は上がったが(法人化前:年間約3万バーツ 法人化後:年間約5万2千バーツ)、企業からの寄付金が増え、施設や設備が充実し教育環境がよくなったと言われている。

<sup>13</sup> このような中で、タイ教育省担当者が、例外として例示した大学が2007年6月に開学した「泰日工業大学」である。この大学は、1973年に元日本留学生が中心となって、産業界の人材育成を目的として設立された「泰日経済技術振興協会」によって、日本語を必修とした「タイにおける日本型もの



より質の確保に重点を置いた政策へと移行している。

高等教育政策は、「第11次国家経済・社会開発計画(2012-2016) (11th National Economic and Social Development Plan)<sup>14</sup>」、「第2次長期高等教育計画(2008-2022) (the Second 15-Year Long Range Plan on Higher Education of Thailand)<sup>15</sup>」を踏まえて実施されている。現在は、①教育改革による教育の質の向上、②教育の機会均等の創造と確保、③教員の能力の強化、④労働市場のニーズを踏まえた教育カリキュラムの策定、⑤ITを活用した教育の実施による国際競争力の確保、⑥研究環境の改善、⑦2015年のASEAN経済共同体発足による「自由化」への対応、が主な課題とされている。

大学の質の向上を図るため、2009年に9大学を研究拠点大学として認定し、2010年～2012年までの3年間、予算を重点配分している<sup>16</sup>。また、1999年に、科学技術の特定の11の分野<sup>17</sup>について、教育研究拠点が認定され、2012年現在で25大学71のアカデミックユニットが、コンソーシアムを形成している。

また、大学の評価については、2009年にQualification Frameworkが示され、教育の成果として、学生の①モラルと倫理、②知識、③論理的思考力、④コミュニケーション能力と責任感、⑤分析力とICT技術について、評価対象とすることが示されている。現在分野ごとのフレームワークについても検討が行われている<sup>18</sup>。

2015年のASEAN経済共同体(AEC)発足<sup>19</sup>に向けて、単位互換制度の仕組みを整え、ASEAN各国の学生が他国の大学に留学しやすい環境を構築することが必要である、といった議論が行われている。このような仕組みが整い、ASEAN域内の学生の流動性が高まれば、より質の高い教育を提供する大学に学生が集まるようになるため、タイの大学においても、国際競争力を高めることが課題となっている。各大学はインターナショナルプログラム(英

づくり実践教育」を行う私立大学として2007年に設立された。卒業生から日本政府奨学金留学生(研究留学生)の合格者も出している。元日本留学生のネットワークの存在の大きさが感じられる。

<sup>14</sup> 国家経済・社会開発計画は、第1次計画が1961年に策定され(1961年-1966年)、その後5年ごとに策定されている。首相府に属する国家経済社会開発委員会が中心となって策定作業が進められ、閣議によって決定される。

<sup>15</sup> 有識者による議論を経てタイ教育省高等教育委員会によって策定された。第1次は、1990年-2004年。

<sup>16</sup> チュラロンコン大学、タマサート大学、マヒドン大学、カセサート大学、キングモンクット王工科大学トンプリ校、チェンマイ大学、コンケン大学、スラナリ工科大学、プリンスオブソクラー大学の9大学。3年間で50億バーツ(約175億円)を支援(タイの会計年度は10月～9月)。研究大学は、大学ランキングの上位に入るのほか、ASEAN諸国の教育ハブになること、研究成果を産業成長や国家の競争力の向上につなげることが期待されている。なお、チュラロンコン大学の教授によれば、チュラロンコン大学は教員が研究活動により力を入れられるように、教員の学生教育の負担を軽減するため、2014年度から学部生の定員を10%減らすことを検討している。

<sup>17</sup> ①Innovation in Chemistry, ②Environment Health and Toxicology, ③Hazardous Substance Management, ④Petrochemicals and Materials Technology, ⑤Energy Technology and Environment, ⑥Agricultural Biotechnology, ⑦Post Harvest Technology Innovation, ⑧Mathematics, ⑨Physics, ⑩Biodiversity, ⑪Medical Biotechnology

<sup>18</sup> 2006年に、教育省高等教育委員会によって、49の機関について、国内最初のランク付けが実施された。当時の新聞報道によれば、元々138の機関をランク付けする予定であったが、評価指標などについて批判があり、タマサート大学などの大学はランク付けに加わらなかった。その後、教育省によるランク付けは行われていないが、教育省は、適正な評価指標ができれば、改善点などが明確になるようにランク付けを行い、大学の質の向上や国際競争力の強化につなげたいとの意向を持っている。

<sup>19</sup> 2003年10月ASEAN各国首脳は、2020年までにASEAN Economic Community(AEC)創設することを合意。2007年1月に実現を加速させ2015年までに前倒しして発足させることが決まっていたところ、2012年11月のASEAN首脳会議において、AEC発足の目標を2015年1月1日から2015年12月末に先送りすることが決定されている。

語で授業を行うプログラム)を増やし、他国からの留学生を積極的に受け入れる体制を整えてきている。

2011年には、20,309人の外国人留学生がタイの大学で学び、10年前の2002年に比べて約6倍に増えている。また出身国で見ると中国が多く約4割を占めているが、続いてミャンマー、ラオス、ベトナム、カンボジアと続き、ASEAN諸国からの留学生が多い。留学生に人気の高い分野は、経営学、国際ビジネス、タイ語である。日本からは345人が留学し、分野では経営学が最も多く33人となっている。

#### 【タイで学ぶ外国人留学生数の推移】

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
人 (日本)	3,339	4,170	4,334	5,601	8,534	11,021 (403)	16,361 (403)	19,052 (402)	20,155 (394)	20,309 (345)

出所：Foreign Students in Thai Higher Education Institutions タイ教育省高等教育委員会

#### 【タイで学ぶ外国人留学生の多い国 (2011年)】

1	中国	8,444人
2	ミャンマー	1,481人
3	ラオス	1,344人
4	ベトナム	1,290人
5	カンボジア	955人
6	米国	830人
7	韓国	601人
8	インド	375人
9	バングラデシュ	374人
10	日本	345人
—	その他	4,270人
合計	-	20,309人

出所：Foreign Students in Thai Higher Education Institutions 2011 タイ教育省高等教育委員会

#### 【在学段階別外国人留学生数とその推移】

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	(日本・2011)
Certificate	798	2,242	2,613	2,078	1,722	18
Bachelor	7,184	10,633	12,465	13,138	13,397	191
Master	2,486	2,679	3,141	3,371	4,031	86
Ph. D	295	364	459	656	667	14
Graduate Diploma	152	66	192	560	12	1
N/A	106	347	182	352	480	35
合計	11,021	16,361	19,052	20,155	20,309	345

出所：Foreign Students in Thai Higher Education Institutions 2011 タイ教育省高等教育委員会

#### 【タイで学ぶ外国人留学生の専攻分野・上位10分野 (2011年)】

1	経営学	3,136人
---	-----	--------

2	国際ビジネス	1,212人
3	タイ語	1,180人
4	英語	740人
5	マーケティング	565人
6	タイ語（コミュニケーション）	500人
7	マネージメント	400人
8	仏教	379人
9	ビジネス英語	344人
10	観光学	333人

出所：Foreign Students in Thai Higher Education Institutions 2011 タイ教育省高等教育委員会

【外国人留学生の多い大学（2011年）】

	外国人留学生		日本人留学生	
1	アサンプション大学	4,179人	アサンプション大学	79人
2	マハチュラロンコーン ラジャビダラヤ大学	1,276人	マヒドン大学	71人
3	マヒドン大学	1,233人	チュラロンコーン大学	40人
4	ラムカムヘン大学	1,004人	タマサート大学	23人
5	チュラキットバンディット大学	625人	コンケーン大学	18人
6	ブラパー大学	585人	ラムカムヘン大学	16人
7	チュラロンコーン大学	560人	シーナカリンウィロート大学	15人
8	チェンライラ・チャパット大学	521人	カセサート大学	14人
9	コンケーン大学	515人	チェンマイ大学	10人
10	タマサート大学	475人	アジア・パシフィック国際大学	10人

出所：Foreign Students in Thai Higher Education Institutions 2011 タイ教育省高等教育委員会

英語で授業を行う「インターナショナルプログラム」については、2012年において、学部レベルが344、大学院修士課程レベルが394、大学院博士課程レベルが249、その他が30、合計1,017のインターナショナルプログラムが実施されており、2003年の387の約2.5倍となっている<sup>20</sup>。

【インターナショナルプログラムの推移（2003-2012年）】

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2010年	2012年
学部	128	153	176	241	277	296	342	344
修士課程	190	203	217	290	327	350	389	394
博士課程	69	109	127	178	220	215	225	249
その他	0	0	0	18	20	23	25	30

<sup>20</sup> タイの大学のインターナショナルプログラムについては、Study in Thailand 2012に詳しい。  
Website: [Office of the Higher Education Commission](http://www.hec.go.th)



合計	387	465	520	727	844	884	981	1017
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

出所：Study in Thailand 2007 2012 タイ教育省高等教育委員会

AECに向けて、学生交流を活発化させようと実施されたプログラムが、AIMSプログラム(ASEAN International Mobility for Students Program)である。このプログラムは、英語の授業を各国の大学が用意し、少なくとも1学期(約4ヶ月)間、学生が交換留学を行うという、単位互換を伴う学生交流支援事業である。プログラムが開始された2010年は、マレーシア、インドネシア、タイの3ヶ国により始まったが、2012年にベトナムが加わり、2013年にはフィリピンとブルネイが加わった。各国は年間25名の学生に対して財政支援を行って、相互の学生交流をサポートしている<sup>21</sup>。

2013年から日本も参加することとなり、日本の政府が「大学の世界展開力強化事業」の一環として、審査に合格した大学に対して支援を行うこととされている。これからは留学生の受け入れにとどまらず、ASEAN諸国の大学の学生との相互交流によって得られるものが大きくなっていると感じており、こうしたプログラムによって、相互交流が盛んになることが期待できる。また、日本の大学、特に学部段階ではイングリッシュプログラムが少なく、これを機会にイングリッシュプログラムが増えると、タイやASEAN諸国の学生にとって、日本留学や学生交流がより身近なものとなるであろう。

### ③タイの大学のアカデミックカレンダーの変更

日本では東京大学の問題提起によって、大学の秋入学について議論が行われているが、タイでは、2015年のAEC発足に向けて、多くの大学においてアカデミックカレンダーが変更される予定である。現在は、多くの大学において2学期制(16週間)がとられ、1学期は6月から9月下旬か10月上旬(10月休みが3週間から4週程度)、2学期は11月から3月上旬か中旬までとなっている。教育省は各大学に、2014年度から国際標準にあわせて、1学期は8月から9月から12月、2学期は1月から5月とするように求めており、多くの大学において2014年度から実施される見込みといわれている<sup>22</sup>。今後は、タイの大学は6月から8月が長期の休暇期間となり、この間を利用して短期の留学プログラムに参加する学生が増える可能性がある。特に2014年度は、4月から8月の5ヶ月程度の休みになるとされており、タイの学生にとっては短期留学のいいチャンスと捉えられている。

また、中等学校については、現在、1学期は5月15日から9月の下旬(10月休みが1ヶ月程度)、2学期は11月から3月の下旬となっているが、3週間ほどずらして、6月10日を始業として、3月の下旬を終業とする(10月中旬から11月中旬が10月休み)ことが検討されている。この案が実施されると、4月から5月の2ヶ月、10月中旬から11

<sup>21</sup> 交流分野は、ホスピタリティ・観光、農学、言語・文化、国際ビジネス、食品科学、工学、経済学の7分野。タイについては、教育省が、優れたイングリッシュプログラムを持っている大学を分野ごとに7校選んでいる。チュラロンコン大学(言語・文化、経済学)、カセサート大学(農学)、マヒドン大学(国際ビジネス)、メーファールアン大学(食料科学)、プリンスオブソクラー大学(ホスピタリティ・観光)、タマサート大学(言語・文化、経済学)、キングモンクット王工科大学トンプリ校(工学)の7大学。

<sup>22</sup> キングモンクット王工科大学トンプリ校などいくつかの大学では先行実施されている。

月中旬の1ヶ月程度が長期休暇となる<sup>23</sup>。

こうしたタイの学校の休みの期間を利用して、各大学において、大学生に対しては研究インターンシップ、高校生に対してはスタディプログラムを実施し、文化交流やホームステイも交えた魅力のあるプログラムが提供できれば、タイの学生に関心を持ってもらうことができる。そして、プログラムの参加によって貴重な経験が得られれば、リピーターとなって将来の長期留学への可能性が高まるであろう。

### 3. タイからの日本留学生

#### (1) タイからの海外留学生数の上位国

ユネスコ統計によれば、2012年には、タイから26,233人が海外留学しているとされている。タイからの海外への留学生数の上位国は、アメリカ(8,455人)、イギリス(5,348人)、オーストラリア(4,229人)、日本(2,419人)、マレーシア(1,301人)とされている。

#### 【タイから諸外国への留学生数】

	国	留学生数		国	留学生数
1	アメリカ	8,455	9	カナダ	384
2	イギリス	5,348	10	スウェーデン	339
3	オーストラリア	4,229	11	インド	309
4	日本	2,419	12	カザフスタン	215
5	マレーシア	1,301	13	韓国	168
6	ドイツ	777	14	サウジアラビア	132
7	フランス	739	15	オーストリア	107
8	ニュージーランド	451	合計		26,233

出所：UNESCO Institute 2012

ユネスコ統計には、タイから中国への留学者数が示されていないが、中国教育部の統計によれば、2011年のタイから中国への留学生数は1万4,145人とされている<sup>24</sup>。同統計では、2008年の中国への留学生数は8,476人とされており、その伸びは極めて大きい。

<sup>23</sup> 中等学校の卒業生にとっては、大学が始まるまでの4月から8月の5ヶ月間が貴重な時間となるが、現段階では、6月上旬から7月中旬にかけて、大学入試の願書の提出、面接試験、合格発表が行われることが検討されている。

<sup>24</sup> 2011年の中国における海外からの留学生数(期間1年以上)は、29万2611人。内訳は、学位取得を目指さないもの(語学留学など)が59.4%、学位取得を目指すもの40.6%。学位取得を目指す留学生のうち学部が約75%、大学院が約20%。国別では韓国(6万2,442人)、アメリカ(2万3,292人)、日本(1万7,961人)、タイ(1万4,145人)、ベトナム(1万3,549人)などとされている(2011中国教育部)。(「アジア9ヶ国の人材マーケット」Recruit Works Institute)

## (2) タイにおける日本留学生の現状

2012年5月1日現在で、タイからの日本留学生<sup>25</sup>の数は2,167人であり、そのうち572人(26.4%)が日本政府奨学金留学生である。2000年以降、順調に伸びてきたタイからの留学生数も2010年をピークにして減少傾向がみられる。

また、世界的に見るとタイ人留学生の数は8番目であり上位にあるといえるが<sup>26</sup>、中国の約86,000人、韓国の約16,000人比べると少なく、少数精鋭の優秀な学生が日本留学を志しているといえる。

## 【タイ人の留学生数の推移】

年	日本政府（文部科学省） 奨学金留学生	私費留学生 外国政府派遣留学生	合計
2000年	529人	716人	1,245人（1.9%）
2001年	556人	855人	1,411人（1.8%）
2002年	561人	943人	1,504人（1.6%）
2003年	622人	1,019人	1,641人（1.5%）
2004年	622人	1,043人	1,665人（1.4%）
2005年	611人	1,123人	1,734人（1.4%）
2006年	572人	1,162人	1,734人（1.5%）
2007年	576人	1,514人	2,090人（1.8%）
2008年	564人	1,639人	2,203人（1.8%）
2009年	588人	1,772人	2,360人（1.8%）
2010年	629人	1,800人	2,429人（1.7%）
2011年	601人	1,795人	2,396人（1.7%）
2012年	572人	1,595人	2,167人（1.6%）

(注) 各年5月1日現在の数字。( )内は外国人留学生全体に占めるタイ人留学生の割合

出所：独立行政法人日本学生支援機構調査

## 【日本留学生の多い国（2012年）】

順位	国	留学生数	順位	国	留学生数
1	中国	86,324人	6	マレーシア	2,319人

<sup>25</sup> ここでいう「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、日本の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生をいう。日本語教育機関の留学生は基本的に含まれていない。日本学生支援機構の調査によるものであり、調査方法が異なるため、ユネスコ統計の数字とは一致していない。

<sup>26</sup> 中国（86,324人）、韓国（16,651人）が抜きんで多く、次いで台湾（4,617人）、ベトナム（4,373人）、ネパール（2,451人）、マレーシア（2,319人）、インドネシア（2,276人）、タイ（2,167人）、アメリカ合衆国（2,133人）と続いている。タイ人の留学生数は、2011年度は全体の6番目であったが、2012年度はネパールとインドネシアに抜かれ8番目となっている。（独立行政法人日本学生支援機構調査）

2	韓国	16,651人	7	インドネシア	2,276人
3	台湾	4,617人	8	タイ	2,167人
4	ベトナム	4,373人	9	米国	2,133人
5	ネパール	2,451人	留学生総数		137,756人

出所：独立行政法人日本学生支援機構調査

タイ人の留学生について、在学段階別にみると、大学院生が1,096人で半数を占めている。学部留学生は706名、専修学校留学生は321人である。

高等専門学校については、その教育内容については評価が高い<sup>27</sup>が、タイからの留学生は少ない。大学を卒業し「学士」を取得することの方が、社会的評価が高いものと考えられる。高等専門学校への留学からタイに帰国した後、タイの大学の3年生に編入できる仕組みが確立されれば、高等専門学校への留学を志望しやすくなるであろう。

なお、日本政府奨学金留学生についてみると、大学院への留学生が498人で87%を占めている。

【タイからの留学生の在学段階別内訳(2012年)】

在学段階	国費 (日本政府奨学金)	私費	合計
大学院	498人	598人	1,096人
学部	62人	644人	706人
短期大学	0人	18人	18人
高等専門学校	7人	4人	11人
専修学校(専門課程)	5人	316人	321人
準備教育課程	0人	15人	15人
合計	572人	1,595人	2,167人

タイ人の留学生の留学先としては、立命館アジア太平洋大学をトップに、東京大学、大阪大学、東京工業大学と続き、国立大学が多いが、私立大学としては、立命館アジア太平洋大学のほか、第5位に早稲田大学、第8位に東海大学が入っており、タイに拠点を置く私立大学が健闘している。

<sup>27</sup> タイ政府は、教育省を中心に、タイの職業教育、技術者養成の充実を図りたいと考えている。特に、将来タイの日系企業で活躍できる技術者の養成を強化したいと考えており、日本の高等専門学校の教育システムを取り入れられないか、専門家の派遣などで協力を得られないか、といった議論が行われている。2013年9月16日の新聞報道(Bangkok Post)では、教育省の副首相が「高専と教育省職業教育局でワーキンググループを作ることを検討している」と述べたことや、教育省職業教育局長が「高専は労働市場からの需要も高く、相互の協力によってタイの職業教育の質を高めることができる」と述べたことが報道されている。なお同じ新聞報道では、ドイツ、韓国、シンガポール、中国とも関係を強化しているとされている。

## 【タイ人留学生の多い大学（2012年）】

順位	学校名		国費 (日本政府奨学金)	私費	合計
1	立命館アジア太平洋大学	私立	1	170	171
2	東京大学	国立	71	63	134
3	大阪大学	国立	74	44	118
4	東京工業大学	国立	72	45	117
5	早稲田大学	私立	24	58	82
6	京都大学	国立	35	24	59
7	筑波大学	国立	13	32	45
7	東海大学	私立	2	43	45
9	九州大学	国立	13	26	39
10	北海道大学	国立	17	12	29

## (2) タイにおける日本政府奨学金留学生（大使館推薦）の現状

独立行政法人日本学生支援機構の調査によれば、2012年度は、タイ人の日本政府奨学金留学生(572人)が、日本政府奨学金留学生全体(8,588人)に占める割合は約6.7%とされている。

また、私費留学生を含めた、タイ人の留学生数の中では、日本政府奨学金留学生の割合が、約26%と比較的大きな数を占めている<sup>28</sup>。

日本政府奨学金留学生は、大学の推薦による場合と、各国の大使館の推薦による場合と、大きく2つの種類がある。

タイにおいては、大使館推薦として、タイ人の留学生候補者を決定するため、広く応募者を募り、筆記試験及び面接試験を実施し、大使館が推薦する候補者の選考を行っている。タイでは、大学院レベルの「研究留学生」、学部レベルの「学部留学生」、「高等専門学校留学生」、「専修学校留学生」のほか、小中高等学校の現職教員を対象とする「教員研修留学生」、若手行政官を対象とする「ヤング・リーダーズ・プログラム(YLP)留学生」、日本語学科の大学生を対象とする「日本語・日本文化研修留学生」の7つのプログラムの留学生候補者の選考を行っている(タイにおける日本政府奨学金留学生(大使館推薦)の概要について別添資料1を参照)。

本稿では、タイにおける日本政府奨学金留学生のうち、「研究留学生」「学部留学生」「高等専門学校留学生」「専修学校留学生」の現状について整理する。

例年、4つのプログラムについて、8月中に大使館推薦(第1次選考)による候補者を決定する。第1次選考を合格した候補者は、各国の大使館推薦者を対象にして行われる、日本の文部科学省(選考委員会を設置)による「最終選考」に諮られ、最終合格者が12

<sup>28</sup> 留学生総数137,756人に対して、国費留学生は8,588人(6.2%)であり、他国と比べるとタイの国費留学生の割合(26.4%)は高い。例えば、中国は1.6%、韓国は5.1%である。なお、インドネシアは、国費留学生の割合が26.8%(留学生総数2,276人、国費留学生数609人)でありタイよりも高くなっている。



月又は1月頃に発表される<sup>29</sup>。

2014年度留学生については、研究留学生については328人の応募者の中から36人（競争率9.1倍）、学部留学生については831人の応募者の中から31人（競争率26.8倍）、高等専門学校留学生については48人の応募者の中から6人（競争率8.0倍）、専修学校留学生については81人の応募者の中から14人（競争率5.8倍）が、大使館による第1次選考を合格している<sup>30, 31</sup>。

	応募者	筆記試験合格者	面接試験合格者 (大使館推薦者)	最終合格者
研究留学生 (昨年度)	328 (452)	83 (94)	36 (34)	(昨年度は34名)
学部留学生 (昨年度)	831 (719)	44 (36)	31 (19)	(昨年度は19名)
高等専門学校留学生 (昨年度)	48 (67)	11 (9)	6 (3)	(昨年度は2名)
専修学校留学生 (昨年度)	81 (95)	19 (8)	14 (6)	(昨年度は6名)

#### ① 応募者数

今年度の応募者は、研究留学生328名（前年度比124名減）、学部留学生831名（前年度比112名増）、高等専門学校留学生48名（前年度比19名減）、専修学校留学生81名（前年度比14名減）であった。

タイでは、日本政府が示す応募要件とは別に厳格な成績要件を定めており、この成績要件を満たすことができずに応募できない留学希望者も多くなっている<sup>32</sup>。

#### 【応募者の推移】

	分野	2014年度奨学金	2013年度奨学金	2012年度奨学金
研究留学生	人文社会科学系①	126人	185人	169人
	人文社会科学系②	46人	59人	76人

<sup>29</sup> 選考スケジュールは年によって変わるが、概ね5月上旬に募集開始、6月上旬に応募締め切り、6月下旬又は7月に筆記試験、7月又は8月上旬に面接試験、8月中に大使館推薦者の決定、といった予定で行われている。

<sup>30</sup> 最終選考に合格した研究留学生は、一般的には、渡日前に配置大学が決定し、6ヶ月間の日本語予備教育を受けた後、研究生として大学に入学することとなる。学位取得希望者は、指導教員と進学に向けた準備を行い、大学院の入学試験を受けて入学することとなる。最終選考に合格した学部留学生、高等専門学校留学生、専修学校留学生については、一般的には、1年間の日本語予備教育を受けた後、本人の希望や成績を考慮して、配置学校が決定されることとなる。

<sup>31</sup> タイの日本留学希望者、タイの教育関係者、日本の教育関係者などに、タイの日本政府奨学金留学生（大使館推薦者）の状況を知ってもらうため、2014年度大使館推薦者（研究留学生、学部留学生、高等専門学校留学生、専修学校留学生）の応募状況等について、在タイ日本国大使館のウェブサイトにおいて公開している。

<sup>32</sup> 「研究留学生」の成績要件は原則 GPA4.00 満点中 3.25。「学部留学生」の成績要件は原則 GPA4.00 満点中 3.80。「高等専門学校留学生」の成績要件は原則 GPA4.00 満点中 3.00。「専修学校留学生」の成績要件は原則 GPA4.00 満点中 3.00。そのほか日本語能力試験の結果(N1~N5級を取得しているかどうか)によって要件を緩和している。

	自然科学系	156人	208人	168人
	合計	328人	452人	413人
学部留学生	人文社会科学系	189人	185人	179人
	自然科学系	642人	534人	493人
	合計	831人	719人	672人
高等専門学校留学生	—	48人	67人	60人
専修学校留学生	—	81人	95人	68人

\* 研究留学生の人文社会科学系①は、法学、政治学、教育学、心理学、社会学、言語学、文学、歴史学、音楽、芸術など。

\* 研究留学生の人文社会科学系②は、経済学、商学、ビジネスなど。

## ②応募者の希望学問分野

研究留学生の人文社会科学系では、言語学、法学、政治学、教育学、社会学のほか、経済学、ビジネスの分野の応募者の割合が高い。自然科学系では、工学の応募者が多く、続いて、科学、情報技術、農学、バイオテクノロジー、薬学の応募者の割合が高い。

学部留学生については、人文社会科学系と自然科学系を比較すると、自然科学系の応募者の割合が3倍以上高く、タイの高校生の多くが理系志向であることが分かる。特に、医学志望者が多く、自然科学系の65%の応募者が医学を希望している。

高等専門学校については、機械工学、情報・コミュニケーション、材料工学の応募者の割合が高い。

専修学校留学生については、ビジネスの応募者が多く、続いて文化・教育、テクノロジーの応募者の割合が高い。

### 【研究留学生】

#### ●人文社会科学系①

分野	応募者数		分野	応募者数	
	2014年度	2013年度		2014年度	2013年度
(a)Laws	15名	18名	(h)History	2名	1名
(b)Politics	16名	13名	(i)Aesthetics	0名	0名
(c)Pedagogy	14名	19名	(j)Music	1名	1名
(d)Psychology	4名	9名	(k)Fine Art	3名	8名
(e)Sociology	12名	8名	(l)Others	35名	65名
(f)Linguistics	21名	34名	合計	126名	185名
(g)Literature	3名	9名			

#### ●人文社会科学系②

分野	応募者数		分野	応募者数	
	2014年度	2013年度		2014年度	2013年度

(a) Economics	14名	13名	(d) Others	3名	4名
(b) Commerce	4名	5名	合計	46名	59名
(c) Business Administration	25名	37名			

● 自然科学系

分野	応募者数		分野	応募者数	
	2014年度	2013年度		2014年度	2013年度
(a) Pure science	18名	22名	(g) Dentistry	3名	4名
(b) Engineering	61名	77名	(h) Home Economics	0名	0名
(c) Agriculture	12名	16名	(i) Biotechnology	10名	13名
(d) Fisheries	0名	4名	(j) Information technology	16名	22名
(e) Pharmacy	9名	17名	(k) Others	24名	31名
(f) Medicine	3名	2名	合計	156名	208名

【学部留学生】

● 人文社会科学系

分野	応募者数	
	2014年度	2013年度
(a) Laws, Politics, Literature, Japanese language and so on	90名	75名
(b) Economics and Business Administration	99名	110名
合計	189名	185名

● 自然科学系

分野	応募者数	
	2014年度	2013年度
(a) Science, Electric, Mechanical studies, Chemical Studies and so on	181名	139名
(b) Agriculture, Food Science, Biology and so on	41名	47名
(c) Medicine and Dentistry	420名	348名
合計	642名	534名

## 【高等専門学校留学生】

分野	応募者数
	2014年度
(1) Mechanical Engineering	11名
(2) Electrical and Electronic Engineering	6名
(3) Information, Communication and Network Engineering	10名
(4) Materials Engineering	11名
(5) Architecture and Civil Engineering	7名
(6) Maritime Engineering	2名
(7) Others	1名
合計	48名

## 【専修学校留学生】

分野	応募者数
	2014年度
(1) Technology	10名
(2) Personal Care and Nutrition	9名
(3) Education and Welfare	6名
(4) Business	32名
(5) Fashion and Home Economics	4名
(6) Culture and General Education	16名
(7) Others	4名
合計	81名

## ③出身校別応募者数

研究留学生については、40校の大学の学生や卒業生から応募があった。

応募者数の上位15校は、チュラロンコン大学、タマサート大学、チェンマイ大学、カセサート大学、マヒドン大学、キングモンクット王工科大学ラカバン校、キングモンクット王工科大学トンブリ校、シーナカリンウィロート大学、シラパコン大学、アサンプション大学、ブラパ大学、コンケン大学、ナレスワン大学、ラムカムヘン大学、アジア工科大学、チェンマイラチャパット大学となっている。

別添の資料に研究留学生の応募者の出身大学をまとめたので参照いただきたい。(別添資料2を参照。)

	学校名	県名	合計	合格者 (1次選考)
1	Chulalongkorn U.	Bangkok	106	14
2	Thammasat U.	Bangkok	37	6

3	Chiang Mai U.	Chiang Mai	34	1
4	Kasetsart U.	Bangkok	31	2
5	Mahidol U.	Bangkok	19	3
6	King Monkut's U. of Tech. Ladkrabang	Bangkok	13	0
7	King Monkut's U. of Tech. Thonburi	Bangkok	9	0
8	Srinakharinwirot U.	Bangkok	8	0
9	Silpakorn U.	Nakhonpathom	7	0
10	Assumption U.	Bangkok	6	0
10	Burapha U.	Chonburi	6	1
12	Khon Khen U.	Khon Khen	5	0
13	Naresuan U.	Phitsanulok	4	1
14	Ramkhamhaeng U.	Bangkok	4	1
15	Asean Institute of Technology	Pathumthani	3	1
15	Chiang Mai Rajabhat U.	Chiang Mai	3	0

学部留学生、高等専門学校留学生、専修学校留学生については、160校の高校（中等学校。一部大学含む。）の学生から応募があった。応募者数の上位10校は、トリアム・ウドム・スクサ校、マヒドン・ウィタヤヌソン校、モンフォート・カレッジ校、スアークラーブ・ウィタヤライ校、トリアム・ウドム・スクサ・パタナカン校、チュラロンコン大学付属高校、サムセン・ウィッタヤライ校、プリンス・ロイヤル・カレッジ校、セイント・ガブリエル・カレッジ校、ヨティン・ブラナ校となっている。

別添の資料に、学部留学生、高等専門学校留学生、専修学校留学生の応募者の出身高校と、タイのすべての高校3年生が受ける学力テスト「O-NET (Ordinary National Educational Test)」の8科目平均点によるランキング (TOP100) をまとめたので参照いただきたい。(別添資料3、4を参照。)

	School Name	District	学部留学生 (文系)	学部留学生 (理系)	高等専門学校 留学生	専修学校 留学生	合計	合格者 (1次選考)
1	Triam Udom Suksa	Bangkok	78	134	4	7	223	24
2	Mahidol Wittayanusorn	Nakonprathom	4	53	1	0	58	4
3	Montfort Collage	Chiang Mai	2	26	0	0	28	0
4	Suankualrb Wittayalai School	Bangkok	0	23	0	0	23	3
5	Traimudomsuksa Pattanakarn School	Bangkok	4	17	0	0	21	0
6	Chulalongkorn University	Bangkok	8	11	0	1	20	2



	Demostration School							
7	Samsenwittayalai	Bangkok	1	19	0	0	20	0
8	The Prince Royal's College	Chiang Mai	2	15	1	0	18	2
9	Saint Gabriel's College	Bangkok	1	16	0	0	17	0
9	Yothinburana	Bangkok	3	14	0	0	17	1

### 【タイの優秀校】

OECDが3年ごとに世界の15歳の児童を対象に学力(学習到達度)調査(PISA: Programme for International Student Assessment)を行っている。2009年調査は65ヶ国・地域で約47万人の15歳男女が参加して実施された。

タイは読解力50位(2003年、2006年、2009年の順に35位→41位→50位。日本は14位→15位→8位。)、数学的リテラシーは50位(同36位→44位→50位。日本は6位→10位→9位。)、科学的リテラシーは49位(同36位→46位→49位。日本は2位→6位→5位。)であり、全体的に順位は低い<sup>33</sup>。

しかし、日本政府奨学金の筆記試験合格者に対する面接や名門の中等学校を訪問して感じることは、優秀な学校には、学力が高く素直で意欲的な生徒が多いということである。

日本政府奨学金留学生の応募者数が多く、O-NETランキングで上位に入っている優秀な学校をいくつか紹介する。

#### ○Triam Udom Suksa School(トリアム・ウドム・スクサ校)

トリアム・ウドム・スクサ校は、1936年に設立された伝統ある学校である。すべての生徒が選抜試験によって選ばれ、全国から優秀な学生が集まっている。O-NETのランキングは全国で2位。1学年約1,500人の定員に毎年約20,000人が応募する。タイの高等学校はほとんどが、中等学校(中学校と高等学校が併設)であるが、数少ない単独の高等学校の1つである。

1学年に文系7クラス(日本語2、仏語2、独語2、スペイン語1)、理系28クラス(科学・数学19、英語・数学5、科学・英語か日本語4)。

日本語専攻コースがあり、全部で173人の先生のうち3人が日本語の教員である。日本人の日本語教員は非常勤で日本語会話のクラスに1人。

海外の大学に進学する留学生は、2012年度に奨学金に合格した学生が76名<sup>34</sup>であ

<sup>33</sup> 2013年8月に在タイ日本国大使館の佐藤大使がチャトロン教育大臣を表敬した際に、タイの教育現場が抱える最大の課題は何か訪ねたところ、大臣は「学力の向上」と答えている。留学説明に訪れる地域の名門中等学校は施設・設備が整い生徒らも優秀であると感じるが、学力の格差が広がっているものと思われる。

<sup>34</sup> ①King's Scholarship Students 8名、②Students Winning Scholarship of the Institute of Promoting for Teaching and Techonology 5名、③Students under Ministry of Science and

り、うち日本政府奨学金留学生合格者が15名である。

## ○サイエンス・スクール

タイ教育省は、2000年度に全寮制で全生徒選抜制のサイエンス・スクール「マヒドン・ウィタヤヌソン校 Mahidol Wittayanusorn School」を設立し、2011年度にはマヒドン・ウィタヤヌソン校をモデルとして、12の地域の「チュラポーン・スクール」を「サイエンス・スクール」として新たなカリキュラムを実践している。

タイ科学技術省は、2008年度に、マヒドン・ウィタヤヌソン校の協力を得て、11の大学に「大学附属サイエンススクール Science Classrooms in University-Affiliated School」を設立した。

これら3種のサイエンススクールは、選抜試験を同じ試験で実施し、協力しあってカリキュラムを作成するなど、教育内容を高めあう努力をしている。

### ①マヒドン・ウィタヤヌソン校 Mahidol Wittayanusorn School

マヒドン・ウィタヤヌソン校は、2000年度に設立された学校である。すべての生徒が選抜試験によって選ばれ、全寮制で全国から優秀な学生が集まっている。O-NETのランキングは全国で1位。1学年240人の定員に毎年約15,000人が応募する。数少ない単独の高等学校の1つ。

1学年に理系8クラス（科学・数学8）。第2外国語の選択科目に「日本語」があり、生徒たちは、週1～2時間程度勉強している。1学年40人程度が授業を受けている。

卒業後は、医学系に進む生徒が50%、工学系に進む生徒が18%、科学系に進む生徒が18%、そのほか14%程度とされている。

2004年から2012年の9年間に海外の大学に留学した学生の数は226名で、1位はアメリカ(105人)、2位は日本(37人)、3位は韓国(26名)、4位はイギリス(22名)、5位は中国(10名)などとなっている。毎年20名程度が海外留学している<sup>35</sup>。

### ②チュラポーン・サイエンススクール Princess Chulabhorn Science Schools

チュラポーン・サイエンススクールは、1993年に、マヒドン大学の教授でもあるチュラポーン王女殿下の誕生日を記念して、12の地域に設立された。その後、2011年度に、マヒドン・ウィタヤヌソン校をモデルにサイエンススクールに発展して現在に至っている。

---

Technology' Scheme 9名、④PTT Scholarship 4名、⑤Students under Ministry of Foreign Affairs' Scheme 3名、⑥Olympiard Scholarship 9名、⑦Japanese Government Scholarship 15名、⑧Korean Government Scholarship 2名、⑨Ritsumeikan Asia Pasific University Scholarship 3名、⑩Bank of Thailand Acholarship 3名、⑪Nanzan University Scholarship 1名、⑫One District One Scholarship 14名（トリアム・ウドム・スクサ校の提供資料より抜粋）。

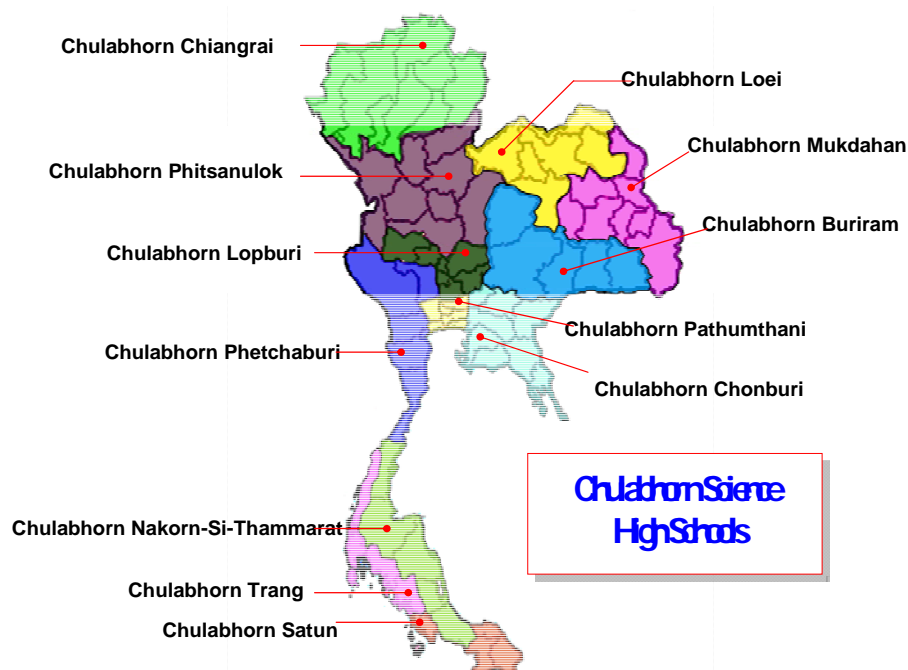
<sup>35</sup> 6位以下の順位は以下の通りとされている。6位シンガポール（6名）、7位ドイツ（5名）、8位オーストラリア（4名）、9位ロシア（3名）、9位フランス（3名）、11位インド（2名）、12位ニュージーランド（1名）、12位スロバキア（1名）、12位オーストリア（1名）

すべての生徒がその近隣の地域から選抜試験によって選ばれ、全寮制である。O-NETのランキングは、8校がトップ100のランキングに入っている<sup>36</sup>。

中等学校1年生から3年生は、1学年につき1クラス24人のクラスが4クラス（科学・数学4クラス）、中等学校4年生から6年生は、1学年につき1クラス24人のクラスが6クラス（科学・数学6クラス）の少人数学級で授業を行っている。

8つのチュラポーン・サイエンススクールに、第2外国語の選択科目として「日本語」があり、週1～2時間程度勉強している。

なお、12のサイエンススクールは、それぞれが日本のスーパーサイエンスハイスクールと協定を結び、お互いの学校を訪問する交流プログラムを実施したり、スカイプを使った合同授業を実施するなどしている。また、大使館は、地方に日本を広めるため、地方との連携を強化しており、日本政府が主催や協力する短期の訪日プログラムへに地方のサイエンス・スクールの生徒を推薦するなどして<sup>37</sup>、協力関係を深めている。



<sup>36</sup> ①Princess Chulabhorn' s College Chiangrai (61位、日本語授業あり)、②Princess Chulabhorn' s College Phitsanulok(日本語授業あり)、③Princess Chulabhorn' s College Loei、④Princess Chulabhorn' s College Mukdahan (38位)、⑤Princess Chulabhorn' s College Lopburi、⑥Princess Chulabhorn' s College Buriram、⑦Princess Chulabhorn' s College Pathumthani (85位)、⑧Princess Chulabhorn' s College Chonburi (98位、日本語授業あり)、⑨Princess Chulabhorn' s College Phetchaburi (76位)、⑩Princess Chulabhorn' s College Nakorn-Si-Thammarat (69位)、⑪Princess Chulabhorn' s College Trang (4位、日本語授業あり)、⑫Princess Chulabhorn' s College Satun (39位、日本語授業あり)

<sup>37</sup> 日本政府が実施する、2013年3月に福島県天栄村で行われた「KIZUNAプロジェクト」に5名(Satun 2名、Trang 1名、Phitsanulok 1名、Chiangrai 1名。)、2013年8月に沖縄で行われた「アジアユース人材育成プログラム」に2名(Pathumthani 1名、Buriram 1名。)、国立高専機構・留学生交流促進センターが実施する、2013年8月に北海道の苫小牧で行われた「高専体験プログラム」に8名が参加(Buriram 2名、Loei 2名、Trang 2名、Nakhon Si Thammarat 2名。)

### ③大学附属サイエンス・スクール “Science Classrooms in University-Affiliated School Project”

大学附属サイエンススクールは、2008年度に科学技術省によって設立され、現在では11の大学に設置されている<sup>38</sup>。11校のうち7校は教育学部の元にある附属高校(Demonstration School)に1学年1クラスのサイエンスクラスが設けられている。4校は教育学部に付属する高校がなく、大学内の独立した学校として、1学年1クラスのサイエンスクラスが設けられている。O-NETのランキングは、附属高校(Demonstration School)も含めて7校がトップ100のランキングに入っている<sup>39</sup>。

対象者に地域の限定はなく、1校の大学附属サイエンススクールとマヒドンウィッタヤヌソンスクール校を併願することができる。1学年に科学・数学学科1クラスで、1クラス30人のみ。

### ○中等学校の特別プログラム (例: Suankularb Wittayalai School スアンクラブ・ウィッタヤライ校)

タイの中等学校の中には、優秀な生徒を選抜して特別カリキュラムを実施するプログラムを設けている学校がある。

Suankularb Wittayalai School は、1882年に設立された伝統ある男子校の中等学校であり、卒業生から8人の首相を出している名門校である。中学段階・高等学校段階にそれぞれ特別のプログラムを設けて優秀な生徒の教育を行っている。

中学校の段階では、特別プログラム(Gifted and Talented Education Program)4クラス、一般クラス8クラスの計12クラス。生徒数約1,850人。1学年約620名。特別プログラムは、1学年144人(36人×4クラス)に、約1,000人が応募する。一般プログラムは約500人の定員に約1,000人が応募する。50%は通学区域の生徒から選んでいる。

高等学校段階では、特別プログラム3クラス、特別科学プログラム(Gifted Science Program)1クラス、特別数学プログラム(Gifted Math Program)1クラス、一般のコースが9クラス。科学・数学コース6クラス、数学コース2クラス、仏語・中国語コース1クラスである。2014年度日本政府奨学金留学生の第1次選考に3名の合格者を出して

<sup>38</sup> ①Chiang Mai University Demonstration School(13位)(Chiangmai University)、②Naresuan University Demonstration School(9位)(Naresuan University)、③Ratchasima Wittayalai School (Suranaree University of Technology)、④Khon Kaen University Demonstration School(26位)(Khon Kaen University)、⑤Mahasarakham University Demonstration School(93位)(Mahasarakham University)、⑥Darunsikhalai School(8位)(King Mongkut's University of Technology, Thonburi)、⑦Kasetsart University Demonstration School, Kamphaengsaen campus (Kasetsart University, Kamphaengsaen campus - Nakhon Pathom)、⑧Piboonbumpen Demonstration School (Burapha University)、⑨PSU Wittayanusorn School (Prince of Songkla University)、⑩Prince of Songkla University Demonstration School(6位)(Prince of Songkla University, Pattani campus)、⑪Papayom Pittayakom School (23位)(Thaksin University)

<sup>39</sup> タイ教育省によれば、大学の教育学部に属する高校は「Demonstration School(附属高校)」と呼んでいるが、教育学部に属さない大学内の学校については、「Demonstration School」と呼んでいないとのこと。

いるが、いずれも特別プログラムの学生である。O-NETのランキングは全国で21位。  
日本語のクラスはない。海外に留学する生徒は毎年1%程度（6～7名）。

## 【タイの優秀校（例）の概要】

	設立年	生徒数（1学年）	応募者	専攻コース 高校段階 1学年の数	日本語 クラス	留学生 数（卒業 後）	O-NET 8科目成績	備考
Triam Udom Suksa School	1936年 * 国立	約 1,500	約 20,000	文系：7 理系：28	専攻コース	76名	2位	
Mahidol Wittayanusorn School	2000年 * 国立	240	約 15,000	科学・数学 8	選択クラス	約 20名	1位	
Princess Chulabhorn Science Schools	2011年 (1993年) * 国立	144（ 中等 学校 後期。 1校）	約 8,600 （中等 学校後 期。12 校合 計）	科学・数学 6	8校に 選択ク ラス	-	トップ 100 に 8校	全国に 12校
Science Classrooms in University-Affiliated School	2008年 * 国立	30	約 5,200 (11校 合計)	科学・数学 1	ない	-	トップ 100 に 7校	全国に 11校
Suankularb Wittayalai School	1882年 * 国立	約 600	約 2,000	特別コース 5 科学・数学 6 数学 2 仏語・中国語 1	ない	1%程度 (6～7 名)	21位	特別プログラムあり

## ④応募者の日本語能力

タイにおいては、留学生の選考プロセスにおいて、必ずしも日本語能力を求めていないため、日本語を勉強したことがない者からもたくさんの応募がある。応募者の日本語能力については、独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験」の結果が目安となる。

最もレベルの高い N1 又は N2 を合格した者は、人文社会科学系（文系）の研究留学生は 50 名。人文社会科学系の研究留学生の中の約 30% に相当する。一方、自然化学系（理系）の研究留学生の応募者のうち、N1 又は N2 を合格した者は 1 名のみで、N3～N5 を含めても 9 名（約 6%）となっている。

学部留学生については、N1 又は N2 を合格した者は、人文社会科学系が 6 名（約 3%）、



自然科学系が3名（約0.5%）。N3～N5については、人文社会科学系の学生はN3が7名（約4%）、N4が15名（約8%）、N5が11名（約6%）であり、約20%の者がN1～N5のいずれかの試験を合格している。

高等専門学校留学生については、N4が1名（約2%）、N5が2名（約4%）である。

専修学校留学生については、N1又はN2を合格した者はいない。N3が3名（約4%）、N4が3名（約4%）、N5が11名（約14%）で、約20%の者がN3～N5のいずれかの試験を合格している。

タイにおいては、選考プロセスにおいて、日本研究を希望する研究留学生を除き、日本語能力を求めてこなかったが、2014年度留学生の選考においては、日本語学習者のインセンティブを高めるため、希望者に対して日本語の筆記試験を実施し、その結果を踏まえて日本語能力の高いものも推薦することとした。

なお、第1次選考合格者の中には、日本語を勉強したことがないものが多く、2013年度留学生の候補者の中には合格したにもかかわらず、日本語能力の不安から辞退したものもいた。2014年度留学生の候補者については、第1次選考を合格したもののうち、希望者に対して、国際交流基金バンコク日本文化センターにおいて、渡日前の日本語初心者コースを開講している。

#### ● 研究留学生

	N1/Level1	N2/Level2	N3/Level3	N4/Level4	N5	Total
人文社会科学系①(126)	21(16.67%)	22(17.46%)	20(15.87%)	10(7.94%)	1(0.79%)	74(58.7%)
人文社会科学系②(46)	4(8.70%)	3(6.52%)	3(6.52%)	2(4.35%)	0(0%)	12(26.10%)
自然科学系(156)	1(0.64%)	0(0%)	5(3.21%)	3(1.92%)	0(0%)	9(5.77%)
合計(328)	26(7.92%)	25(7.62%)	28(8.54%)	15(4.60%)	1(0.30%)	95(28.96%)

#### ● 学部留学生

	N1/Level1	N2/Level2	N3/Level3	N4/Level4	N5	Total
人文社会科学系(189)	1(0.5%)	5(2.65%)	7(3.70%)	15(7.94%)	11(5.82%)	39(20.63%)
自然科学系(642)	1(0.16%)	2(0.31%)	2(0.31%)	9(1.40%)	2(0.31%)	16(2.49%)
合計(831)	2(0.24%)	7(0.84%)	9(1.08%)	24(2.89%)	13(1.56%)	55(6.62%)

#### ● 高等専門学校留学生

	N1/Level1	N2/Level2	N3/Level3	N4/Level4	N5	Total
高等専門学校留学生(48)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(2.1%)	2(4.2%)	3(6.3%)

## ● 専修学校留学生

	N1/Level1	N2/Level2	N3/Level3	N4/Level4	N5	Total
専修学校留学生(81)	0 (0%)	0 (0%)	3 (3.70%)	3 (3.70%)	11 (13.6%)	17 (21.0%)

タイの中等学校には、日本語の専攻コース（週5～7コマ程度）を設けている学校が約200校ある。筆者がこれまで日本語専門コースの学生らと話したりした経験からすると、学生らはN5を目指し、よくできる学生がN4、ものすごくよくできる学生がN3、日本に1年の留学経験のある学生がN2、日本に1年以上滞在した経験のある学生がN1という感じである。一生懸命日本語を勉強する学生を大切にしたいが、中国や韓国の学生らに比べると、現状では、まだ日本語のレベルは高くないといえるであろう<sup>40</sup>。

## (3) タイ政府奨学金留学生の現状

タイ政府の調査によれば、タイ政府奨学金留学生<sup>41</sup>の数は、2013年5月現在で、3,189人である。日本への留学生は233人で、ドイツと並び、アメリカの1,146人、イギリスの887人に次いで第3位となっている。

## 【タイ政府奨学金による諸外国への留学生数（上位20ヶ国）】

順位	国	留学生数	順位	国	留学生数
1	米国	1,146	11	マレーシア	26
2	英国	887	12	スウェーデン	21
3	日本	233	13	イタリア	19
3	ドイツ	233	14	ロシア	12
5	フランス	131	15	スペイン	11
6	オーストラリア	130	15	デンマーク	11
7	オランダ	111	17	ニュージーランド	9
8	中国	89	18	オーストリア	7
9	スイス	43	19	シンガポール	5
10	カナダ	36	19	インド	5

<sup>40</sup> 独立行政法人国際交流基金による日本語能力試験認定の目安は、N1：幅広い場面で使われる日本語を理解することができる、N2：日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる、N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる、N4：基本的な日本語を理解することができる、N5：基本的な日本語をある程度理解することができる、とされている。

<sup>41</sup> ここでいうタイ政府奨学金留学生は、タイ政府の人事院が主導的役割を担っている、①King's Scholarship Students、②Government Scholarship Students、③Students under Ministry of Foreign Affairs' Scheme、④Students under Ministry of Science and Technology' Scheme、⑤Students under Ministry of Public Health' Scheme、⑥Students under the Office of the Higher Education Commission、⑦The One District One Scholarship、⑧Students Winning Scholarship of the Institute of Promoting for Teaching and Technologyの8つのプログラムを指している。

「The One District One Scholarship (ODOS)」奨学金留学生を除いたタイ政府奨学金留学生の学問分野をみると、工学がトップで456人、続いて、生物学292人、物理学218人、コンピューターサイエンス157人、数学153人、化学134人、法律132人、社会学105人、経済学99人、政治学97人となっており、理系の奨学金留学生が多いことが分かる。

【タイ政府奨学金留学生の学問分野（上位20分野）】

順位	分野	留学生数	順位	分野	留学生数
1	工学	456(17.76%)	11	ヒンズネ	83(3.23%)
2	生物学	292(11.38%)	12	言語学	70(2.73%)
3	物理学	218(8.49%)	13	医学	64(2.49%)
4	コンピューターサイエンス	157(6.12%)	14	食品科学	54(2.10%)
5	数学	153(5.96%)	15	農学	52(2.03%)
6	化学	134(5.22%)	16	材料科学	50(1.95%)
7	法学	132(5.14%)	17	教育学	45(1.75%)
8	社会学	105(4.09%)	18	科学	40(1.56%)
9	経済学	99(3.86%)	19	薬学	39(1.52%)
10	政治学	97(3.78%)	20	看護学	37(1.44%)

タイ政府奨学金留学制度において特徴的なプログラムとして、「One District One Scholarship(ODOS)」(1郡1奨学金制度)がある。

「ODOS」は、1つの郡(全928郡)から1人の学生を選んで、海外留学の機会(大学の学部)を与えるタイ政府の奨学金プログラムである(タイ国内の大学を選ぶこともできる)。2004年及び2006年に実施され、2012年に6年ぶりに復活した。当時は被英語圏のみへの留学に限定されていたが、2012年以降は原則そのような限定は行われていない。

対象者は大学進学を予定する高校生で学校の成績GPAは4.00満点中3.00以上が求められる。奨学期間は1～2年間は語学を勉強し、4～5は大学の学部課程で学ぶ。奨学金は授業料を含めて年間100万バーツ。奨学期間が終わり、タイに帰国後は、国家公務員にならないといけないといった制約はない。ただし、国家公務員になりたい場合、筆記試験が免除される。

筆記試験と面接試験により対象者が絞られる。筆記試験の科目は英語、数学、社会、科学。1郡で1番スコアの高いものが合格となるが、70%以上の得点が求められる。合格者は自ら留学先を決定し国内での語学研修等を経て留学に出発。約1年半の留学先での語学研修等の後、大学に入学する。

2012年は928人の枠のうち689名が合格(受験者約3,000人)。122名が日本を選択し一番人気が高かった。以下、ドイツ86、英国76、オランダ59、中国48、米国46、フランス41、スイス34、オーストラリア17などとなっている。

希望する学問分野は、工学をトップに、経済学、生物学、環境科学、日本語などとなっている。

## 【One District One Scholarship(ODOS)の日本留学生の学問分野】

順位	分野	留学生数	順位	分野	留学生数
1	工学	50	9	デザイン	4
2	経済学	24	10	会計学	2
3	生物学	9	11	コンピュータサイエンス	2
4	環境科学	7	12	食品科学	1
5	日本語	6	13	地理学	1
6	ビジネス	5	14	英語	1
7	化学	5	-	合計	122
8	言語学	5			

2013年は、1,856人の枠のうち98名が合格（受験者約1万7千人）。うち12名は20万バツ未満の収入の家庭の子。2013年8月現在で、2名（機械工学と医学を志望）が日本を選択。そのほか、タイ国内50、米国7、英国7、ドイツ3、中国2、オーストラリア2、オランダ1、ロシア1、カナダ1、検討中21、キャンセル1となっている<sup>42</sup>。

日本大使館では、大使公邸で合格者に対する壮行会を行うなどして、タイ政府奨学金留学生との関係を深められるように取り組んでいる。2013年募集の合格者のうち、日本留学の希望者が2名に減ってしまったことは、説明会に参加したものとして責任を感じている。

説明会において、学生にとっては、日本留学について①日本語能力、②大学に入学できるかどうか、の2点の不安が大きいことを改めて認識した。こうした不安を払拭できるように、例えば、各国の政府奨学金留学生について、日本学生支援機構などが、大学と学生のマッチングを行う役割を担うといったことは考えられないだろうか。大学入学先等について、適格に留学生にアドバイスができるアドバイザーがいれば、タイ政府奨学金留学生にとって、安心して日本を選ぶことができるようになるであろう。

現在、日本では2012年の試験に合格した122名の学生が日本語学校で勉強に励んでいる。東京に在るタイ大使館が中心となって、留学説明会が行われている。これらの学生が、希望する大学や分野について学べるように、日本の大学がタイ政府奨学金留学生を積極的に採用していただけることを期待したい。

また、タイ政府は日本のみを対象に、タイ人学生を日本の高校（東京学芸大付属高校）から大学の学部卒業（希望者は修士課程進学も可能。）まで留学させる制度を設けている。この留学制度は30年以上の歴史があるが、留学生は1年半の語学研修期間を含め、学生生活を10年近く日本で過ごすため、日本語、日本の文化・政治・経済に明るく、帰国後は、外交官、大学教員など日本のスペシャリストとして活躍をしている。大事にしたい制度であり人材である。2011年度までは5名の枠であったものが、2012年度からは、合格者の減少により2名の枠となっている<sup>43</sup>。制度が維持され、留学生を継続的に輩出できる

<sup>42</sup> 2013年は昨年の倍の枠を用意したが試験に合格した学生が少なかったため、2次募集を実施している。（申請書の受付7.17～7.31。筆記試験10.27。採用予定人数1,759名）。第1次募集の合格者は2013年9月出発、第2次募集の学生は2014年9月出発予定。

<sup>43</sup> 2013年度は352人の応募者の中から2名が合格。1名が日本留学を決め1名が辞退。

ように、できる限りのサポートを続けていく必要がある。

#### 4. タイにおける日本留学フェアの取り組み

タイでは、日本学生支援機構タイ事務所が日本の大学関係者の協力を得て、精力的に日本留学の情報提供を行っている。また、バンコクを中心に、同タイ事務所や元日本留学生協会、民間の留学エージェントの主催により日本留学フェアが盛んである。フェアに参加した学生のうち、実際に留学できた人が何人いるかについては、調査ができていないが、タイの学生は、こうしたフェアに参加をして情報収集に積極的であり、最初のコンタクトとの場として、一定の効果がある。東日本大震災やタイでの大洪水の影響などから、一時停滞気味であったタイ人の留学生フェアの参加者数が、日本学生支援機構や元日本留学生協会、その他のエージェントの努力によって、持ち直してきている<sup>44</sup>。

日本学生支援機構は、バンコクやチェンマイの大きな都市において、多くの大学の参加を得てブース形式のフェアを実施している。日本大使館は、大使も参加して地方の大学や周辺の高校において、元日本留学生の協力を得て、タイにオフィスのある大学と一緒にセミナー形式の留学フェアを行っている。地方にも日本留学に関心のある学生は多いが、こうした機会が少ないため、大学や中等学校の先生や学生は歓迎をしてくれる。地方から日本への留学を志す学生も増えてきており、少しでも印象に残ることが提供できれば、将来、日本留学に結びつく可能性があると思って取り組んでいる。例年、元日本留学生のネットワークが強い、コンケン大学、ナレスワン大学、プリンス・オブ・ソクラー大学、ウボンラチャタニ大学とその周辺の高校を訪問している。2012年度は、それぞれ約570人、約220人、約250名、約100名の学生らの参加があった。2013年8月には、北部のチェンライ県（2校）とランパーン県（1校）にある中等学校<sup>45</sup>を訪問して日本政府奨学金留学生の説明会を行った。それぞれ約400人、約400人、約100人の高校生らが集まってくれて、熱心に耳を傾けてくれた。地方の大学や中等学校においても、日本留学の紹介を展開していくことは意義が大きい。

日本大使館や日本学生支援機構のほか、民間留学エージェントが、毎年継続して日本留学フェアを主催し多くの参加者を得ている。クイズ大会、作文コンテスト、タイの日本語学科の大学生による日本文化紹介といった、学生が楽しめるイベントも盛り込んで、日本語学校を中心に教育機関の参加を得て工夫を凝らしたフェアとして学生を引きつけている。2011年度からは、留学フェアと日系企業就職フェアとの合同開催も行われるようになり、参加する学生らから好評を得ている<sup>46</sup>。多くの日系企業がタイに存在することは、日本留学や日本語学習の大きなインセンティブとなっており、タイの学生が日系企業によりアプローチしやすいように、このような産官学が連携した取り組みが、日本やタイでよ

<sup>44</sup> 日本学生支援機構とタイ王国元日本留学生協会が主催する日本留学フェア（バンコク1日、チェンマイ1日）には、2013年度はバンコク2,324名（昨年度比約140%増）、チェンマイ791名（昨年度比約160%増）の参加者があり昨年に比べて増えている。

<sup>45</sup> Princess Chulabhorn College Chaing Rai, Samakkhithamm Wittayakom School, Bunyawas Wittayalai Schoolの3校。

<sup>46</sup> ライトハウスインフォサービス主催の留学フェアと合同で行われたバンコク日本人商工会議所の就職フェアにおいては、2013年1月のフェアでは採用確定者が4社18名、8月のフェアでは採用確定者が6社20名出るなど、成果を出している。



り盛んになることが期待される<sup>47</sup>。

一方、各国もタイからの留学生の獲得に力を入れており<sup>48</sup>、競争が激しくなっている。アメリカ、EU、イギリス、カナダ、オーストラリア、中国、韓国などがタイにおいて留学フェアを開催し、学生の勧誘に熱心に取り組んでいる。タイの政府が1年に1回開催するOCSC(Office of Civil Service Commission) International Education Fairにも、2013年度は21ヶ国から285の機関が参加する予定とされている<sup>49</sup>。

最近ではアメリカやイギリスのほか、オーストラリアやニュージーランドなど、英語圏の大学の人気が高まっているほか、中国や韓国で勉強する学生も増えている。日本の大学がレベルの高い教育研究を提供し、産官学が一体となって継続的に情報提供を行い、留学生への支援を続けないと、現時点では一定の留学生数を保っている日本留学生数が、諸外国の大学に押されて激減してしまう可能性も否定できないほど競争が激しくなっているといえる。

#### 【タイにおける主な留学フェアの状況（大使館が主催・後援するもの）】

留学フェア名 (主催者)		参加機関					参加者	備考
		大学	専門学校	日本語 学校	その他の 公的機関	日系 企業		
日本留学フェア 主催：日本学生支援 機構、タイ王国元日 本留学生協会	2013.09.01 バンコク (2012年度)	61 (41)	1 (0)	14 (18)	6 (3)	—	2,324 (1,699)	* 日本語弁 論大会と同 時開催
	2013.08.30 チェンマイ (2012年度)	30 (25)	1 (0)	9 (10)	3 (3)	—	791 (494)	
JASSO Education Fair in Embassy of Japan	2013.6.3～ 6.7 バンコク	12	—	9	—		約500	* 日本政府 奨学金留学 生の応募者

<sup>47</sup> 外国人留学生の卒業後の進路について、52.2%の留学生が日本における就職を希望している。そのほか、日本において進学を希望する留学生49.6%、出身国において就職を希望する留学生27.8%、出身国において進学を希望する留学生4.2%(複数回答あり)、などとされている(日本学生支援機構「私費外国人留学生生活実態調査」(平成23年度))。平成24年における留学生の日本での日系企業等の就職状況については、①中国7,032人、②韓国1,417人、③台湾352人、④ベトナム302人、⑤ネパール224人、⑥タイ170人、⑦バングラデシュ162人、⑧スリランカ91人となっている。タイ人留学生については、平成19年から毎年、87人、97人、101人、109人、109人、170人と増えてきている(「留学」の在留資格を有する外国人が我が国の企業等への就職を目的として行った在留資格変更許可数。)  
「平成24年における留学生の日本企業等への就職状況について」(平成25年7月31日法務省入国管理局)

<sup>48</sup> 中国は、2020年までに50万人という外国人留学生の受け入れ目標を設定している。2013年2月に発表された「孔子学院発展計画」によれば、2011年末までに105ヶ国で358の孔子学院と500の孔子学堂が設立され、受講生が50万人に及んでいるとされている。計画においては2015年までに全世界で孔子学院を500ヶ所、孔子学堂を1000ヶ所、受講生を150万人(うち50万人はインターネット孔子学院受講生)とすることを目標としている。韓国は、2020年までに20万人という外国人学生の受け入れ目標を設定している。

<sup>49</sup> ①イギリス(71機関)、②アメリカ合衆国(43機関)、③中国(39機関)、④オーストラリア(18機関)、⑤オランダ(12機関)、⑥日本(11機関)、⑦スコットランド(9機関)、⑧スイス(9機関)、⑨フランス(8機関)、⑩カナダ(6機関)となっている。



主催：在タイ日本国 大使館、日本学生支 援機構		* 資料 配付 22		* 資料 配付 6	* 資料配 付 2			(約 1,000 名)を対 象に 実施。
Japan Education Fair 主催：ライセンスア カデミー	2013.07 ハジャイ (2012年度)	- (-)	1 (1)	3 (6)	1 (-)	- (1)	103 (230)	
	2013.07 バンコク (2012年度)	1 (-)	1 (1)	4 (6)	- (-)	- (1)	315 (245)	
	2013.02 ハジャイ	1	1	4	-	-	130	
	2013.02 バンコク	1	2	5	-	-	160	
JEDUCATION FAIR 主催：ライトハウス インフォサービス	2013.08 バンコク (2012年度)	6 (3)	- (2 高校参加)	20 (21)	- (-)	46 (-)	4,960 (3,642)	* バンコク 日本人商工 会議所主催 の就職フェ アと同時開 催
	2013.01 バンコク (2011年度)	11 (8)	- (2 高校参加)	28 (25)	- (-)	71 (52)	7,565 (4,686)	
Study in Japan Fair 主催：マイニチ・ア カデミック・グルー プ	2013.08 バンコク (2012年度)	4 (1)	3 (1 高校参加) (3)	7 (10)	- (-)	- (-)	1,227 (1,252)	
	2013.02 バンコク (2011年度)	1 (0)	3 (1 高校参加) (2)	5 (9)	- (-)	- (-)	954 (896)	
OCSC International Education Expo 主催：タイ政府人事 委員会 (Office of Civil Service Commission)	2013.11.2- 3 バンコク (2012年度)	7 (4)	- (-)	2 (2)	1 (1)	- (-)	2013.11 開催 (30,926)	* 世界から 285 機関参 加予定。(昨 年度は 295)

\* 大使館が主催者となり元日本留学生協会の協力を得て、コンケン大学、ナレスワン大学、ウボンラチャタニ大学、プリンス・オブ・ソンクララー大学において、日本学生支援機構やバンコクにオフィスのある大学と一緒に、セミナー形式の地方留学説明会を実施している（あわせて周辺の高校を訪問し説明会を実施。）。

\* バンコクでは、日本学生支援機構が主催者となり、バンコクにオフィスのある大学と一緒に高校を訪問し、セミナー形式の留学説明会を頻繁に実施している。

\*参加者等の数字は主催者発表の数字。

5. タイにおける日本語教育の状況<sup>50</sup>

## (1) タイにおける日本語学習者等の現状

国際交流基金による2012年調査によれば、タイにおける日本語学習者数は、129,616人となり、2009年調査と比較して、50,814人(64.5%)の増加となっている。特に、中等教育段階(中学・高校)の日本語学習者は、42,400人から88,325人と45,925人増加し、2倍以上の増加率である<sup>51</sup>。教員数は、1,387人となり、2009年調査と比較して、147人(11.8%)増加している。

【2012年調査(速報値・国際交流基金調査) 2013.07.08公表】

区分	学校教育				学校教育 以外	合計
	初等段階	中等段階	高等段階	小計		
機関数(機関)	— (2)	— (242)	— (88)	— (332)	— (28)	465 (377)
教師数(人)	— (3)	— (415)	— (395)	— (757)	— (343)	1,387 (1,240)
学習者数(人)	1,552 (1,534)	88,325 (42,400)	19,908 (23,707)	109,785 (67,641)	19,831 (11,161)	129,616 (78,802)

\* 速報値であり教師数及び機関数の段階別の内訳は未公表。( )内は国際交流基金による2009年調査の数値。

タイにおいて、戦後の本格的な日本語教育は、1960年代の中頃に、タマサート大学及びチュラロンコーン大学に日本語講座が設けられたことによって始まった。

2010年10月現在で、国立・私立をあわせると、ラチャパット大学を含めて、127校(ラチャパット大学31校)において日本語教育が行われている。

また、日本語専攻課程(学士号)を開講している大学は、2011年9月現在で、国立17校(20学科)、私立7校、ラチャパット大学13校の合計37校(40学科)である(別添資料5を参照)。

中等教育段階においては、日本語科目は、1981年から正式に後期中等教育の第2外国語の1つに採用されている。現在は、教育省が2008年に発表した「基礎教育カリキュラム」に基づいて行われている。「タイ語」「数学」「理科」「社会科・宗教・文化」「保健体育」「美術・音楽・舞踊」「職業訓練・工業技術」「外国語」の8つの学習カテゴリーに分けられ、日本語は「外国語」科目の一つとして位置づけられている。

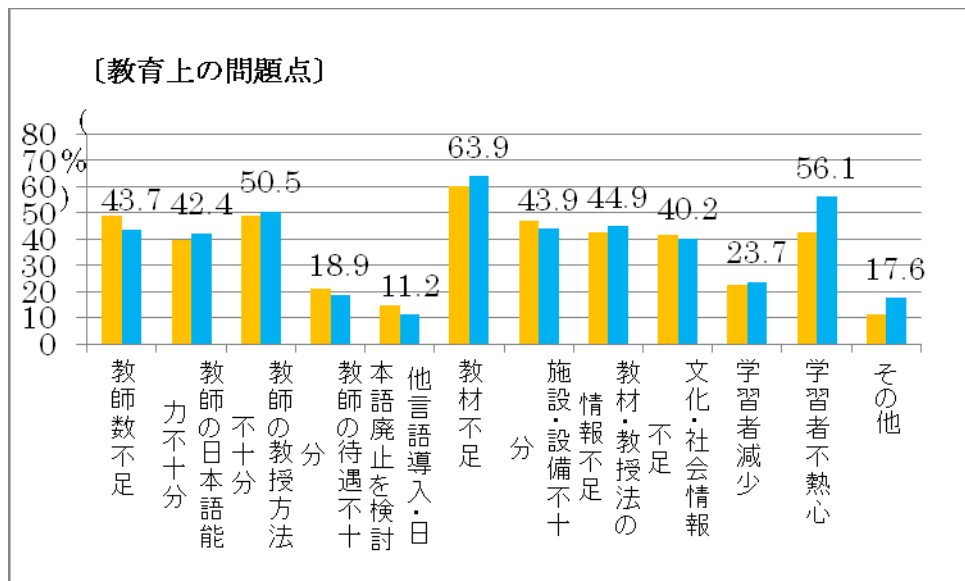
後期中等学校での日本語学習は、①週に5コマ～7コマ程度学習する専攻コース、②週に1コマ～2コマ程度学習する選択科目、③正規科目ではなく課外活動として週に1回程度学習する日本語クラブの3つの形態によって行われている。

<sup>50</sup> タイの日本語教育の現状については、独立行政法人国際交流基金バンコク日本文化センターのウェブサイト詳しく記述されており、本稿においても参考とした。

<sup>51</sup> 2012年5月にタイの教育省が公表した調査によれば、中等段階における第2外国語の学習者数は、中国語約29万人、フランス語約35,500人、韓国語約1万人、ドイツ語約2,200人などとされている。

また、タイでは大学入試の第2外国語の試験科目として日本語を選択できる大学が多く、国際交流基金バンコク日本文化センターの報告によれば、2010年度の日本語の受験者の延べ人数は、中国語(35,573名)、フランス語(23,870名)に次いで多い数(20,917名)となっている。

国際交流基金による、「教育上の問題点」についてのアンケート調査(2012年)の結果をみると、教材の不足(63.9%)、学習者不熱心(56.1%)のほか、教師の教授方法不十分(50.5%)、教師数の不足(43.7%)、教師の日本語能力不十分(42.4%)のほかに、教師の日本語能力不十分(50.5%)、教師数の不足(43.7%)、教師の日本語能力不十分(42.4%)が上位にきており、教員と教材を充実させて、日本語学習者のレベルを高めることが課題であることが分かる。



筆者も、タイの中等学校を訪問するたびに、日本語教員が不足していることを訴えられ、その必要性を身に染みて感じている。実際、中等学校については、2009年の国際交流基金の調査によれば、42,400人の学習者に対して、教師の数が415人で、100名を教員1人が教えていることになり、中等学校の教員不足は深刻である。また、2012年の調査では、中等学校の日本語学習者が2倍以上増加しており、日本語学習者のニーズに対する教員不足の状況はより深刻化していると考えられる。

また、日本語教員については、大学で日本語を専攻した日本語教員は少なく、英語など他教科の教師が、国際交流基金バンコク日本文化センターとタイ教育省が共催で実施する10ヶ月間の日本語教師新規養成講座など、その後の学習を経て日本語を教えるようになったものが多いといわれている。タイ人の日本語教員のスキルアップも大きな課題である。

なお、中国政府は国と国の協定に基づき、約1,700名の中国人中国語教員を派遣し<sup>52</sup>、タイでの中国語の普及に大胆に取り組んでいる。教育省が2012年5月に公表した調査によれば、中等学校で第2外国語として中国語を学ぶ生徒の数は約30万人である。韓国語

<sup>52</sup> タイの教育省によれば、タイと中国は協定を結び、中国政府は、2013年度に約1,700名の若い中国人中国語ボランティアを派遣している(主に中等学校、一部小学校を含む。国立の学校約800、私立の学校約600、大学約100、その他、民間の中国語学校やNPOなど約300)。タイ政府は、1ヶ月12,000パーツの手当、宿舍の提供、損害保険及び健康保険の補助、ビザとワーキングパミットの手配などを行い、中国政府は、航空運賃の支給、1ヶ月500ドルの手当、1,000ドルの一時金の支給などの支援を行っている。

を学ぶ生徒の数は約1万人で最近人気が高まっているといわれている。

(2) タイ政府による日本語教育強化の取組み (中等教育段階)

① 日本語専攻コースの設置と日本語教育センター校の認定

タイの中等学校の日本語教育の特徴として、教育段階において、週に5コマ～7コマ程度学習する専攻コースのある学校が多いことが挙げられる。

タイ教育省によれば、専攻コースのある中等学校は約200校あるが、2011年度から、そのうち28の学校を「日本語教育センター校」として認定し、日本語教育を行う周辺の282の学校(周辺校。選択科目の学校を含む。)の日本語教育拠点として位置づけ、日本語キャンプや日本語スピーチコンテストなどの財政支援を行っている。周辺校の数は、バンコクとその周辺地域が83校、北部が70校、東北部が65校、南部が25校、東部が18校、西部が16校、中央部が5校となっており、バンコクのほか、北部や東北部などの地方の中等学校でも日本語教育が盛んであることが分かる。

【タイ教育省が認定する日本語センター校 (28校)】

地域	学校名	県名	周辺校数	周辺校の県
バンコクとその周辺地域	1) Sri Ayudhya School	Bangkok	63	Bangkok
	2) Wat Ratcha-0-Rot School	Bangkok		Bangkok
	3) Tepleela School	Bangkok		Bangkok
	4) Sarawittaya School	Bangkok		Bangkok
	5) Suankularb Witthayalai Nonthaburi School	Nonthaburi	10	Nonthaburi, Phra Nakhon Si Ayutthaya, Nakhon Nayok
	6) Thammasat Kloungluang Witthayakhom School Pathumthani	Pathumthani	10	Pathumthani, Saraburi
中央部	7) Pibul Witthayalai School, Lopburi	Lopburi	5	Lopburi, Singburi, Ang Thong
西部	8) Kanchananukroh School	Kanchanaburi	10	Kanchanaburi, Suphanburi
	9) Prachuap Witthayalai School	Prachuap	6	Prachuap Khiri Khan, Phetchaburi, Samut Sakhon, Samut Songkhram
南部	10) Wichienmatu School	Trang	8	Trang, Chumphon, Krabi, Nakhon Si Thammarat
	11) Satri Phuket School	Phuket	3	Phuket
	12) Woranari Chaloem School, Songkhla	Songkhla	14	Songkhla, Phatthalung, Satun, Pattani, Yala

東部	13) Chonkanyanukoon School, Chonburi	Chonburi	18	Chonburi, Rayong, Prachin Buri, Chanthaburi, Chachoengsao
東北部	14) Udonpittayanukool School	Udonthani	5	Udonthani, Nong Bua Lam Phu, Khon Kaen, Loei
	15) Mukda Witthayanukun School, Mukdahan	Mukdahan	7	Mukdahan, Nakhon Phanom, Sakhon Nakhon, Kalasin
	16) Bueng Kan School	Bueng Kan	8	Bueng Kan, Nongkhai
	17) Prang Ku School, Si Sa Ket	Si Sa Ket	6	Si Sa Ket
	18) Benchama Maharat School, Ubon Ratchathani	Ubon Ratchathani	4	Ubon Ratchathani
	19) Narinukun School, Ubon Ratchathani	Ubon Ratchathani	5	Ubon Ratchathani, Roi-et, Amnat Charoen
	20) Wichitra Phitthaya School, Ubon Ratchathani	Ubon Ratchathani	10	Ubon Ratchathani
	21) Ratchasima Witthayalai School, Nakhon Ratchasima	Nakhon Ratchasima	16	Nakhon Ratchasima, Chaiyaphum, Buri Ram
	22) Princess Sirindhorn School, Surin	Surin	4	Surin
北部	23) Yupparaj Witthayalai School, Chiang Mai	Chiang Mai	9	Chiang Mai, Mae Hong Son
	24) Lampang Kanlayanee School, Lampang	Lampang	17	Lampang, Lamphun
	25) Samakhi Witthayakhon School, Chiang Rai	Chiang Rai	14	Chiang Rai, Phayao
	26) Piriyalai Changwat Phrae School, Phrae	Phrae	8	Phrae, Nan
	27) Phitsanulok Phitthayakhom School	Phitsanulok	10	Phitsanulok, Phichit, Nakhon Sawan
	28) Chalermkwansatree School, Phisanulok	Phitsanulok	12	Phitsanulok, Phetchabun

出所：タイ教育省提供資料より作成

### ○Sarawittaya School

日本語教育センター校の1つの例として、バンコクのサラウィッタヤー校を紹介する。サラウィッタヤー校は、バンコクの住宅地域にある、中学校段階約2,100名、高等学校段階約1,800名の大規模な中等学校。中等学校入学段階において、通学区域内の生徒は全

体の70%で全員入学できる。残りの30%は学区外から受け入れ、10%は推薦入学、20%は選抜試験。

高等学校段階では、1学年につき、科学コース4クラス、数学コース4クラス、技術コース1クラス、仏語コース1クラス、日本語コース1クラス、中国語コース1クラス、韓国語コース1クラスである。

必修科目が週にタイ語4時間、数学2時間、科学2時間、社会2時間、仏教2時間、美術又は音楽1時間、体育2時間、会議1時間であり、そのほか、専攻コースを週に6～8時間、選択の第2外国語を0～2時間学ぶ。

【履修科目】高等部（週当たり時間数）

必修科目										選択	
タイ語	数学	科学	社会	仏教	英語	美術	音楽	体育	会議	専攻科目	第2外国語
4	2	2	2	2	7	1		2	1	6～8	0～2

高等学校段階において、日本語専攻コース（週8時間）の受講生は197名。選択科目の日本語クラスの受講生は244名。使用教材は、「あきこと友だち」、「みんなの日本語」、「こはるといっしょに にほんご わーい」、「日本のドラマやアニメ」など。日本語教員はタイ人4名、日本人2名であり、比較的充実している。

【日本語学習者の数】

		高等段階1年	高等段階2年	高等段階3年	合計
日本語専攻コース受講者	学級数	1	1	2	4
	生徒数	45	55	97	197
日本語選択科目受講者	学級数	2	2	2	6
	生徒数	75	85	84	244

日本語能力試験の取得状況をみると、2011年はN5が15名、N4が10名、2010年はN5が42名、N4が14名となっている。

海外に留学する生徒は毎年1%程度（5～6名）。アメリカ、イギリス、中国、マレーシアが多い。来年度は中国政府の奨学金を得て10名が中国留学の予定。

②タイ人の日本語教員の養成

タイでは、1999年の「国家教育法」を契機として、2003年6月に「教育及び教育職員審議会法(Teachers and Educational Personnel Council Act)」が制定され、教員資格制度を「免許制度」に転換<sup>53</sup>するとともに、教育学部の修了年限が4年から5年（学部養成4年とインターン研修1年）に引き上げられ、2004年度の入学生から適用されている。

<sup>53</sup> 免許は「教員」だけでなく、「学校管理職者」、「地方教育行政官」、「指導主事」に対する4種の免



教育学部以外の学生（例えば、人文学部日本語学科）は、1年間の教育プログラムを受講することで、教員免許試験受験の資格を得ることができるとされている。

教育省は、日本語教育を含め、教員不足を解消して、第2外国語の教育を充実させるため、2012年12月に、2018年までに600名の第2外国語の教員を養成し、中等学校の教員として雇用する政策を発表した。中でも日本語教員の養成を最も重視し、毎年50名、合計200名の日本語教員を養成するとしている<sup>54</sup>。

教育省は、2013年8月に、35歳以下であり教育学部の5年生又は日本語専攻学科の卒業生を対象に50名の日本語教員を募集した。教員の給料が十分でなく、日本語教員志望の学生が少ない中で、日本語教員志望者の応募が50名もあるか懸念をしていたが、205名の応募者があり、筆記試験・面接試験を経て、2013年9月に50名の合格者が発表されている<sup>55</sup>。合格者は、2014年2月～5月に日本語研修を受け、2014年10月から中等学校に勤務をする予定とされている。

日本語研修については、独立行政法人国際交流基金がバンコクでの2ヶ月研修、日本での2ヶ月研修の実施に全面的に協力を行う予定であり、新たに200名のタイ人の日本語教員を養成する、という重要な教育省の施策の実現に国際交流基金が果たしている役割は大きい。

## 6. 今後の留学生政策と日本語教育の展開

### (1) 留学生政策の展開

タイにおいて、欧米諸国のほか、中国、韓国などが積極的に留学フェアを展開するなど、タイ人留学生の獲得競争が激しい。

ユネスコ統計によれば、2012年には、タイから26,233人が海外留学しており、この中で日本は、アメリカ(8,455人)、イギリス(5,348人)、オーストラリア(4,229人)に次いで、4番目に多い留学先(2,419人)となっており、現時点では比較的人気が高い。

「奨学金はありますか」「日本語力は必要ですか」。留学フェアなどにおいて、日本留学に関してタイの多くの学生が最初に尋ねる言葉であり、生活費が高く、語学の難しさを抱える日本留学について、継続的に情報提供を行い、留学生への支援を続けないと、将来有望な優秀な学生が他国に流れてしまう可能性も否定できない<sup>56</sup>。

学生が留学を考える際には、自分のキャリアパスにプラスになるかどうかを考えるので、留学生にとって将来に役立つ質の高い教育研究環境を提供することが最も重要であることはいうまでもないが、これを前提に、引き続き、優秀なタイ人の学生が日本留学を希望し、その数をさらに伸ばしていくには何が効果的か、考えてみたい。

許制度が創設されている。

<sup>54</sup> その他の第2外国語教員は、韓国語140人、フランス語60人、ドイツ語40人、スペイン語40人、ベトナム語25人、ミャンマー語25人、クメール語25人、マレー語25人、ロシア語20人を予定。

<sup>55</sup> 過去2年間に日本語能力試験N4を合格したものは、日本語能力を測る筆記試験が免除されることとなっている（つまり、求められる日本語能力はN4以上）。応募者205名のうち、N2は7人、N3は21人、N4は14人であった。

<sup>56</sup> 中国は、ユネスコ統計には含まれておらず、調査の設定条件が異なるため単純比較はできないが、中国教育部の統計によれば、2011年のタイから中国への留学生数は1万4,145人とされている。

## ① 日本政府の取組み

文部科学省の日本政府奨学金は、タイにおいて、ステータスの高い奨学金として、バンコクのような中心部だけでなく、地方の学生らにも浸透している<sup>57</sup>。

2008年の「留学生30万人計画」を踏まえて、文部科学省は、外国人留学生を2012年の14万人から2020年までに30万人に倍増させること、日本人留学生を2010年の6万人から2020年までに12万人に倍増させることを目指している。

「留学生30万人計画」実現に向けた施策拡大の一環として、2013年8月に文部科学省の「戦略的な留学生交流の推進に関する検討会」によって、「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受け入れ戦略（中間まとめ）」が出された。この中で「重点地域や重点国」、「重点分野」を設定して機動的・戦略的な外国人留学生の受け入れを実施することが示されている。

「中間まとめ」では、外国人留学生受け入れ施策の成果が期待できる分野として、「工学」「医療」「法学」「農学」が例示されている。また、重点地域としては、①ASEAN、②中央アジア、③インド等南西アジア、④ロシア及びCIS諸国、⑤アフリカ、⑥中東、⑦南米、⑧中東欧、⑨米国、が例示されている。

重点地域としては、経済発展の現状から、ASEAN地域との関係強化は欠かせないであろう。また、重点分野について、タイの状況を見ると、2012年の「産業別のGDP構成比<sup>58</sup>」は、製造業34.0%、農林漁業12.2%、「就業者の産業別構成比<sup>59</sup>」は、農林漁業39.6%、製造業13.9%となっており、いずれも大きな割合を占めている。

タイにおける日本政府奨学金留学生の応募者の分野別状況は、2014年留学生応募者で見ると、研究留学生については、文系172名の応募者のうち、①ビジネス25名、②言語学21名、③政治学16名、④法学15名、⑤経済学、教育学14名などとなっている。また、理系156名の応募者のうち、①工学61名、②科学18名、③情報技術16名、④農学12名、⑤バイオテクノロジー10名などとなっており、「法学」「工学」「農学」を志望する学生は多い<sup>60</sup>。また、学部留学生については、全831名の応募者のうち、理系が642名と約75%を占め、中でも医学志望者が420名と多く、続いて工学系が181名となっている。これまでの日本政府奨学金の制度では、医学分野については、他の分野に比べてより優秀な

<sup>57</sup> 2014年度日本政府奨学金留学生に関して、厳しい成績要件を科している（研究：GPA4.00中3.25、学部：GPA4.00中3.80、高専：GPA4.00中3.00、専修：GPA4.00中3.00）にもかかわらず、研究留学生についてはタイ国内の31大学（卒業生含む）から、学部留学生、高等専門学校留学生、専修学校留学生については、160の中等学校等から応募者があった。

<sup>58</sup> NESDB 国家経済社会開発委員会事務局 (Office of the National Economic and Social Development Board) 統計(2012)では、製造業34.0%、卸・小売、家具等12.9%、農林漁業12.2%、ホテル・レストラン5.2%、建設業2.7%などとなっている。内閣府統計によると、日本の産業別の構成比(2011)は、農林漁業1.2%、製造業18.6%、建設業5.6%、卸小売14.3%などとなっている。

<sup>59</sup> 労働力調査(2012)では、農林漁業39.6%、卸・小売、家具等修理15.4%、製造業13.9%、建設業6.4%、ホテル・レストラン5.9%などとなっている。

<sup>60</sup> JICA (独立行政法人国際協力機構) のプロジェクトとして、2003年3月からアセアン工学系高等教育ネットワーク(AUN/SEED-NET)プロジェクトが実施され、ASEAN域内の工学系人材育成などに取り組んでいる。これまで、日本やASEAN域内の大学において、約900名の大学教員が修士号や博士号の取得の機会を得るなど大きな成果をあげている。タイのチュラロンコン大学内に事務局が置かれ、2013年3月からのフェーズ3(5年間を予定)では、ASEAN10ヶ国の26大学(タイからは、チュラロンコン大学、キングモンクット王工科大学ラカバン校、ブラパー大学、タマサート大学、カセサート大学の5校)、日本の14大学がネットワークを形成してプロジェクトが実施されている。

学生が求められ（筆記試験の成績など）、タイからは、毎年1名程度しか合格者が出ていなかったが、2013年度留学生から、①応募者が多く日本が貢献できる分野であること、②アジアの経済成長を支える日系企業など、タイや近隣に居住する多くの日本人にとって、日本で学んだ医者への存在は大きいことから医学部志望の推薦者を増やすこととして、昨年度は6名の合格者が出ている<sup>61</sup>（2014年度留学生については5名を推薦）。なお、外交政策的観点からは、日本で学んだ、政治学者、日本研究者の養成も重要であろう。

タイから日本への留学生数2,167人（2012.05.01現在）のうち、私費留学生在が1,595人、日本政府奨学金留学生在が572であり、私費留学生在が約75%を占めているが、日本政府奨学金が拡大することで、日本留学への関心をより高めることができ、私費留学生在を含めた全体の留学生の数を引き上げる相乗効果を生むことが期待できる。

タイ人の日本政府奨学金留学生在572人のうち、大学院生498名、学部生は62名であり、新たなスキームとして学部留学生在を重点的に支援することも考えられる<sup>62</sup>。

なお、日本政府奨学金留学生在の選考においては、研究留学生在については、筆記試験合格者を広く出した上で、面接を重視して選考を行っている。一方、学部留学生在、高等専門学校留学生在、専修学校留学生在については、他国の大使館の推薦者の間での最終選考の競争が激しく、筆記試験の結果をより重視して選考を行っている。例えば、「学部」「高専」「専修」留学生在について、一部でも国別の枠が設定されれば、地方の優秀校、日本の高校と交流を積極的に行う優秀校、日本語授業に力を入れる優秀校の生徒のほか、医学など特定の分野の学生など、今後の日タイの関係強化を重視した選考が行いやすくなる<sup>63</sup>。

## ②タイの日本大使館の取組み

日本大使館は、日本政府奨学金留学生在の選考を担うほか、元日本留學生との関係の構築が大きな役割である。また、タイの学生、政府関係者、教育関係者に日本留学の情報を伝えるとともに、日本の教育関係者に、タイの留学事情を提供していくことも重要である。

<sup>61</sup> 2013年度留學生の医学部志望（学部留學生）の合格者は6名であったが、うち3名が留学し3名が辞退している。辞退者3名は、タイの中で最も権威があるとされているKing's Scholarshipを獲得した者、日本語の不安からタイ国内の大学に進学することを決めた者であった。

なお、タイでは、医者になるためにはMedical Councilが実施する国家試験に合格して医師免許を取得しなければならない。タイの大学で学ぶ医学部学生については、国家試験のステップ1を3年目（筆記試験）、ステップ2を4年目（筆記試験）、ステップ3を6年目（実技試験）に受験することができる。海外に留学して学ぶ医学部生については、海外の医師免許を取得済みの場合は、国家試験の受験資格があるが、海外の医師免許を取得していない場合は、1年の病院（タイでも海外でも可能）での実務研修を終了することで受験資格が得られる。また、国家試験については、国家試験の受験資格を得た後にステップ1・ステップ2を同時に受験でき、合格者がステップ3に進むことができる。現在はステップ1・2の筆記試験の出題はタイ語と英語であるが、2015年からは英語に統一される。ステップ3の実務試験はタイ語である。

医師免許の取得プロセスがタイの大学の卒業生と海外の大学の卒業生とで少し異なっており、日本の大学の医学部を目指す留學生に十分な説明をしておく必要がある。

<sup>62</sup> 生活費も含めたフルスカラーシップが理想であるが、日本の財政事情が厳しい中では、例えば、「渡航費」と「授業料免除」のような新たなスキームでも、日本政府奨学金の拡大が実現できれば、日本留学志望者にとって魅力であり、優秀な留學生の受け入れにつながるができる。

<sup>63</sup> タイにおける2014年度日本政府奨学金留學生の第1次選考合格者の希望学問分野は、研究留學生は、（理系）工学7名、科学4名、情報技術2名、薬学1名、歯学1名、（文系）ビジネス7名、教育学3名、言語学3名、芸術3名、法学1名、政治学1名、経済学1名、社会学1名、社会福祉1名。学部留學生は、（理系）工学9名、医学5名、化学2名、科学1名、バイオテクノロジー1名、数学1名、（文系）経済学6名、日本語2名、法学1名、ビジネス1名、社会学1名、心理学1名。

日本留学を志す生徒が多い優秀な中等学校等とのネットワークを強化して、日本留学について紹介していくことが有効である。例えば、前述した、チュラポーン・サイエンススクール（日本のスーパー・サイエンス・ハイスクールと協定を結び交流を行っている。12校。）などのサイエンススクール、日本語教育センター校（日本語専攻コースを持つ中等学校で地域の拠点校。28校。）、日本政府奨学金の応募者が多い学校、タイ政府の学力テスト（O-NET）の上位校がターゲットとなり得る。

タイの日本大使館では、バンコクのような大きな都市だけでなく、地方の若者にも日本のことを知ってもらえるように取り組んでおり、日本留学についても、地方の高校にもっと多く足を運び、日本留学を紹介する地道な取り組みを続けていくようにしたい。

### ③ 渡日前奨学金の創設

大学内には、渡日後にもらえる奨学金は用意されているが、渡日前にあらかじめ給付が確定する奨学金は、日本政府奨学金のほか、数が少ない。日本留学を希望する学生が最初に断念をするのは、費用負担の面である。タイでは、大学の授業料が、年間約4万バーツ程度であり生活費も安くすむことから、授業料・生活費ともに費用負担が大きい日本留学は依然としてハードルが高い。しかし、近年の経済成長により、海外留学できる学生層が増えていると感じられ、例えば、100%授業料免除のほか、70%、50%など、渡日前に確定するような授業料免除の仕組みがあれば、ある程度留学生生活に必要な資金を計算することができ、優秀な学生が日本留学を志す可能性が高まるであろう。

なお、渡日前奨学金の一つとして「外国人留学生学習奨励費」があり、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験(Examination for Japanese University Admission for International Students)<sup>64</sup>」の成績優秀者が受けることができる（月48,000円（2013年・学部））。これまで「日本留学試験」を受けたタイ人留学生（タイ国内受験）がこの学習奨励費を利用した例がないが、理由としては、①この制度についてタイ人学生に浸透していない、②渡日前奨学金の合格者へのフォローアップが不十分である、の2点が挙げられる。渡日前奨学金の合否は試験の結果とともに面接を実施して意欲の高い者を合格者とするのが望ましい。少なくとも、合格者へのオリエンテーションを行い、希望大学・分野への願書提出まで、丁寧なフォローアップを行い、実績を積み上げることで、制度の利用者を増やすことができるであろう。日本学生支援機構タイ事務所とともに、大使館としてできる協力をしていきたい。

### ④ 短期の研究インターンシップ・スタディプログラムの充実

過去に日本の大学の研究インターンシップや日本政府等の青少年交流プログラム・研修プログラム（JENESYS、KIZUNA プロジェクト、東南アジア海外青年の船事業、国際交流基

<sup>64</sup> 多くの大学が外国人留学生の入学選考（学部等）に活用している試験。タイ国内において年2回（6月、11月）受験できる。成績は過去4回分が有効。出題科目は「日本語」「理科」「総合科目」「数学」の4科目。受験料は370バーツ。この「日本留学試験」を受けることで、日本に行くことなく日本留学が決定される大学もある。



金日本語研修など)に参加した学生は、日本留学を志すことが多い。

日本を訪問し、いい経験をすると、改めて日本の大学で教育を受けたい、研究をしたいと考える傾向が強い。日本政府奨学金留学生の合格者にも、短期や長期のプログラムの参加者が多い。

日本の大学が、タイの学生らが休みの時に参加できるような、大学生への研究インターンシップ、高校生へのスタディ・プログラムを創って実施できれば、その後に大学院や大学に入学することを希望する学生が出てくるのが期待できる。また、その学生の人柄、能力、将来の希望なども把握ができて、個々のリクルート活動にも活かすことができるであろう。

タイは経済の発展とともに、教育レベルも高まっており、タイの大学への海外からの留学生が、10年で約6倍に増え、2011年には2万人を超えている。イングリッシュプログラムが充実され、外国からの留学生が学びやすい環境が整ってきている。2011年には345人の日本人がタイに留学しているとされている。今後はタイから日本留学生を受け入れるだけでなく、相互の交換プログラムが盛んになることで、タイや日本について相互理解が深まり、留学仲間を増やすことにつなげることができる。

#### ⑤ 英語プログラムの強化

留学生に対しては、日本語で教育を行うプログラム、英語で教育を行うプログラムの両方が必要であろうと思うが、特に大学の学部において、英語で受けられるプログラムが少なく、英語での授業を希望する学生のニーズに十分に答え切れていない。

英語プログラムの選択肢が増え、海外の留学生と日本人学生と一緒に授業を受けられるような環境ができれば、日本語に不安を感じるタイ人学生にとって、日本留学への距離が縮まることになる。

なお、前述したように、タイ人高校生の日本語のレベルとしては、日本語能力試験で見ると、1年の日本留学経験者がN2級、日本語の専攻コース(週5~7時間)などで学び、ものすごくよくできる生徒がN3級、すごくできる生徒がN4級といった感じであり、現時点では高校生の日本語のレベルは高くない。学部留学の要件に「N1」や「N2」を求めている大学もあるようであるが、これらの要件があると、実質的には、日本語がよくできる「中国」や「韓国」の留学生だけを対象にするようなことになり、東南アジアなど他の国の学生の留学機会を閉ざしてしまうことになる。

日本語能力の要件を撤廃するか、緩和して、渡日後の日本語教育に力をいれることができれば、タイ人の日本留学の機会を増やすことができるであろう。

#### ⑥ 地方自治体との連携

昨年頃から、地方自治体のタイへの進出が目覚ましい。観光や食のプロモーション、商談会などトップセールスを展開するケースが多いが、バンコクで開催される日本留学フェアに参加して学生を勧誘するなど、東南アジアの国との人材交流に力を入れる自治体や関連国際交流団体も増えている。例えば、埼玉県は2013年7月1日に、留学前から留学後

の就職までをトータルに支援する「グローバル人材育成センター埼玉」をオープンし最初のプロモーションの場としてタイを選んでいる。石川県は、県人会を発足させ石川県の大学の元留学生が積極的に参加するとともに、独自の日本語・日本文化研修プログラムに新たにタイ人学生の参加を促し実績をあげている。また、30を超える自治体や関連国際交流団体が、月2万円などバラエティに富んだ留学生向け奨学金を提供している。学生にとっては、生活支援も重要な支援であり、大学と自治体が連携して勧誘活動を行ったり、留学後の生活や就職活動をサポートしたりすることができれば、安心感が生まれる。大学にとっては、自治体との連携強化も一つの方策となるであろう。

### ⑧タイ政府奨学金留学生

タイ政府の調査によれば、タイ政府奨学金留学生の数は、2013年5月現在で、3,189人である。日本への留学生は233人で、ドイツと並び、アメリカの1,146人、イギリスの887人に次いで第3位である。

日本政府奨学金留学生と同じように、タイの優秀な学生が集まっており、大切にしたい人材である。大使館では、日本政府奨学金留学生と一緒に大使の公邸で壮行会を開催し、日本からの留学生にも参加をしてもらって、交流の場を作っている。

タイ政府奨学金留学生にとって一番の不安は、将来のキャリアに役立つ大学に入学できるかどうかであり、例えば、政府奨学金留学生について、日本学生支援機構が、大学と学生のマッチングを行う役割を担うことができれば、タイ人の学生にとって安心して日本を選ぶことができるようになるであろう。

## (2) 日本語教育の展開

### ①タイにおける日本語普及に向けた日本関係機関の取り組み

タイには、独立行政法人国際交流基金バンコク日本文化センターがあり、タイでの日本語の普及に大きな貢献をしている。日本語教育の専門家7名が派遣され、バンコクでの日本語学習者向け講座や10ヶ月の教員養成プログラム、日本での日本語研修プログラムのほか、バンコク以外の地方に派遣されている専門家の先生方は、大学や中等学校での日本語授業の支援や教員研修の実施に取り組んでいる。2013年には、タイの中等学校など、日本語教育機関の日本人教員の雇用への支援をスタートする。また、教育省とも密接な関係を保ち、教育省が実施する日本語国際キャンプや日本語教員養成プログラムに積極的に協力している。

独立行政法人国際協力機構（JICA）からは、約20人の日本語ボランティア教員（青年海外協力隊員）が日本語専攻コースのある中等学校に派遣され活躍をしている。

また、タイに在住の方が日本語教員をしているケースも多く、国際交流基金の調査では、日本語教員のうち3割は日本人教員とされている<sup>65</sup>が、日本人日本語教員は、教育省や学

<sup>65</sup> 日本人の日本語教員の給料は、学校によって異なるが、大学の場合概ね1ヶ月3万バーツ（9万円）、



校の先生から教育能力や教育姿勢の評価が高く、日本人日本語教員を求める学校が多い理由の一つともなっている。

日本語学習者の最も大きなインセンティブは、日系企業の存在である。中等学校の生徒に日本語を勉強している理由を尋ねたところ、8割が将来日系企業に就職をしたいと答えが返ってきたこともあった。日本の漫画、アニメ、ゲームなどをきっかけに日本語の勉強を始めるケースが多いが、中等学校くらいになると、生徒たちなりに将来のキャリアパスを考えている。

バンコク日本人商工会議所は、タイ北部日本語日本研究大学コンソーシアムを支援するほか、ライトハウスインフォサービスが主催する留学フェアとの同時開催で「日系企業就職フェア」を実施し学生が企業にアプローチをしやすい環境を創っている。

## ②今後の展開

2012年の国際交流基金の調査によれば、タイの日本語学習者の数は、129,616人となり、2009年調査と比較して、50,814人(64.5%)の増加となっている。特に中等教育段階(中学・高校)の日本語学習者は、42,400人から88,325人と45,925人増加し、2倍以上の増加率であり、大変嬉しいことである。

しかし、日本語のレベルはまだ十分とはいえない現状にあり、これからは、日本語能力のレベルアップを図ることを重視して取り組む必要がある。そのためには、日本語教員の増加と能力の向上、日本で研修する機会を増やすこと、インターネットなどを活用した教育方法を開発することが重要であろう。日本語能力の高いタイ人を育てるという観点からも、日本留学生を増やすことは大切である。

日本では、2013年に外務省に「海外における日本語の普及促進に関する有識者懇談会」が、首相官邸に「アジア文化交流懇談会」が設置され、海外での日本語教育について積極的に議論が行われ、具体的な政策提言が示されており、政策実現の期待が高い<sup>66</sup>。

「海外における日本語の普及促進に関する有識者懇談会」については、政策提言が出され、「学習の動機付け」として、①日本の魅力の発信の強化、②日本企業への就職、留学など将来のキャリアパスの明確化などが、取り組むべき課題と方向性として示されている。また、「学習環境の整備」に関して、①中等教育機関への戦略的・緊急支援、②基金専門家・日本語ネイティブ教師の派遣強化、③現地日本語教師の育成、④質の高い魅力ある学習教材の提供、⑤日本語教育におけるIT化の推進、が示されている。

また、「アジア文化交流懇談会」において、アジアでの日本語教育拡充の方策について議論がされ、①大学・大学院生やシニア世代等の日本人日本語教員の派遣、②現地日本語教員の訪日研修の実施、③現地教育関係者の日本招へいの実施、④eラーニングの開発やオンライン日本語講座の開設などIT技術の活用、⑤日系企業への就職など日本語学習のメリットを享受できる環境づくり、が具体的施策として提言されている。

---

中等学校の場合概ね1ヶ月2万バーツ(6万円)程度が相場である。

<sup>66</sup> 佐藤大使が表敬訪問した際に、チャトロン教育大臣は「若いタイ人に日本語は大変人気が高く学習者が多い。ただしレベルが高いとはいえないので、Intensive Courseを設けるなどして、レベルを上げていくことが必要だと考えている。日本政府の支援にも期待をしている。」と発言している。

特に、「日本語教員の増加」については、タイの教育省が2018年度までに200名のタイ人の日本語教員を養成する方針を打ち出しており、これに呼応する形で、中等学校に対する「日本人の日本語教員派遣」の仕組みが実現するように期待したい。国際交流基金やJICAなどの日本語教員の先生たちが、慣れない土地で若い高校生を相手に奮闘し、楽しく授業を行い、生徒たちから親しまれている姿をみて、意欲のある日本人の先生がたくさんタイに来てくれれば、生徒たちの上達もはやいだろうと感じている。

日本のNPO法人「ヤイ・夢・ASIA」は、タイの東北部の中等学校に日本語教員を派遣している。バンコクのタイ人日本語教員が集まって設立したNPO法人「Thailand Japan Youth Exchange Club」は、日本の大学などの協力を得てバンコクの中等学校に日本語教員を紹介する活動を行っている。

国際交流基金が中心となって、日本の大学や日本語学校、NPO法人などのほか、各国大使館や各国政府の協力を得て、「日本人教員のサポート」と「学校と日本人教員のマッチング」の仕組みができれば、学習者の能力の向上のほか、教員の能力の向上にもつながるであろう。

具体的には、一つの案として、次のような仕組みが考えられる。

契約期間は原則1年間（大学生や大学院生の場合は1学期（約4ヶ月））でも可とする。）として、タイ人日本語教員とのチームティーチングの形で、週20コマ程度の授業を行う。

対象は、①日本語教育の専攻あるいは副専攻で学んでいる者・終了した者、②日本語教員養成講座（420時間）を終了した者、③日本語教育能力検定試験に合格した者、④教員の免許取得のために学んでいる者・あるいは取得済みの者、⑤意欲が高い者、として専門家に限らず、意欲ある者を広く採用できるようにする。ただし、④⑤の者に対しては、1～2ヶ月程度研修期間を設ける。

政府が、中等学校の日本語教員のニーズ調査のほか、教員としての契約、宿舍の提供、赴任時の送迎、ビザの発行、労働許可証の発行、健康保険・事故保険について支援を行う。日本政府は、生活費等の手当、往復航空運賃を支援する。

体制としては、日本政府の委託を受けて国際交流基金が、日本語教員の募集やマッチングなど事務的機能を担う。なお、派遣先を決める際には、学校のニーズのほか、外交政策的観点も考慮する。

教員派遣の規模については、バンコクで開催された「アジア文化交流懇談会」の場で、タマサート大学の教授が、「東南アジアに1,000人、タイには200人、日本人の日本語教員を派遣してほしい」との発言があり、5年後の達成目標として一つの目安になるであろう。

日本人の日本語教員派遣のプログラムが実現した際には、日本の大学に、卒業生や在学生に広く周知し参加を促すような形で協力をしてもらうことで、意欲在る若い方々を集めることができるのではないかと。文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の「SEND(Student Exchange - Nippon Discovery)プログラム」や「グローバル人材育成推進事業」などによって、日本の学生が海外の大学や学校での日本語教育のサポートに参加する機会も増えている。たくさんの若い方々に関心を持ってもらいたい。

- 授業の形態：タイ人日本語教員とのチームティーチング形式（週20コマ程度）
- 契約期間：原則1年間（大学生や大学院生の場合は1学期間（約4ヶ月）でも可とする。）
- 対象者：（日本国内だけでなくタイ国内の在住者も対象とする）
  - ①日本語教育の専攻あるいは副専攻で学んでいる者・終了した者
  - ②日本語教員養成講座（420時間）を終了した者
  - ③日本教育能力検定試験に合格した者
  - ④教員免許取得のために学んでいる者・取得済みの者
  - ⑤その他、意欲が高く海外での日本語教員が務まると認められる者  
（④⑤の対象者については1～2ヶ月間の研修を行う。）
- 支援：
  - ①タイ政府：学校のニーズ調査、教員としての契約、宿舍の提供、赴任時の送迎、ビザの発行、労働許可証の発行、健康保険・事故保険の支援 など
  - ②日本政府：生活費等の手当、往復航空運賃の支援、日本語教育研修の提供 など
- 体制：国際交流基金が日本政府の委託を受けて事務的機能を担う。

一つの案として、上記の内容を示したが、海外やASEAN地域における日本語教育の普及について、日本政府内で具体的な検討がされており、こういった形であれ、少しでも、タイやASEAN地域の日本語教育が充実するように具体的施策が展開できることを期待したい。

## 7. おわりに

本稿のレポートが、大学や教育関係者をはじめ、日タイの留学生交流や日本語教育に関わりのある方々の役に立てば幸いである。日本とタイの留学生交流や学術交流が拡大し、タイの日本語教育のレベルアップが更に進むことを期待したい。

タイは、元日本留学生協会など元日本留学生のネットワークが強い。また、日本学生支援機構（JASSO）、日本学術振興会（JSPS）、日本の大学のほか、国際交流基金（JF）、国際協力機構（JICA）、日本政府観光局（JNTO）、日本貿易振興機構（JETRO）、バンコク日本人商工会議所（JCC）、タイ国日本人会など、多くの関係者の方々が、相互に情報共有を図りながら、自然と協力・連携をしている。

今後も、こうした方々と協力しながら、こどもにやさしく微笑みを絶やさないタイと日本の良好な友好関係がずっと続くように、自分ができることに取り組んでいきたい。

別添資料1:

【日本政府奨学金留学生制度の概要】

区分	研究 留学生	教員研修 留学生	学部 留学生	日本語・ 日本文化 研修留学生	高等専門 学校 留学生	専修学校 留学生	ヤング・ リーダーズ・ プログラム 留学生	
創設年度	昭和 29 年度	昭和 55 年度	昭和 29 年度	昭和 54 年度	昭和 57 年度	昭和 57 年度	平成 13 年度	
資 格	大学(学部) 卒業以上の 者	大学(学部) 卒業以上の 者 (在職経験 5年以上)	高等学校 卒業程度の 者	大学(学部) に在学中の 者	高等学校卒業 程度の者	高等学校 卒業程度の 者	大学(学部)卒業 以上の者 (在職経験 3~5 年以上)	
成績要件 (タイの場合)	原則 GPA:3.25	原則 GPA:2.75	原則 GPA:3.80	原則 GPA:3.10	原則 GPA:3.00	原則 GPA:3.00		
年齢制限 (採用時)	35 歳未満		17 歳以上 22 歳未満	18 歳以上 30 歳未満	17 歳以上 22 歳未満	18 歳以上 22 歳未満	原則 40 歳未満 (ビジネスコース は原則 35 歳未満)	
専門教育	大学院で 専門分野を 専攻	教員養成 学部で 特別研修	学部教育	日本語又は 日本事情の 特別研修	高専 3 年 次に編入学	専修学校の 専門課程	大学院 修士課程	
日本語予備 教育	半年 日本語能力の十分な者は 直接入学		1 年	なし	1 年	1 年	なし	
期 間	日本語教育 を含め 2 年以内	日本語教育 を含め 1 年 6 ヶ月 以内	日本語教育 を含め 5 年(医・ 歯・獣医 学:7 年)	1 学年間	日本語教育 を含め 4 年 (商船学専攻 は 4 年 6 ヶ月)	日本語教育 を含め 3 年	1 年	
実績 (2013 年度合格者)	34 名	8 名	19 名	12 名	2 名	6 名	3 名	
奨学金	月額 非正規生 143,000 円、修士課程 144,000 円、 博士課程 145,000 円		月額 117,000 円				月額 242,000 円	
	修学地域により月額 2,000 円又は 3,000 円の加算あり							
授業料	国立大学法人及び高等専門学校機構は不徴収、公私立は文部科学省負担							
渡航旅費	往復航空運賃(航空券)支給							

: 「奨学金」は年度によって異なる。

## 別添資料 2 :

**Numbers of Applicants by University** (出身大学別の応募者数)  
**Research Students 2014** (研究留学生)

	Name of University	Provinces	R1A	合格者	R1B	合格者	R2	合格者	Total	合格者
1	Chulalongkorn U.	Bangkok	39	<b>3</b>	13	<b>3</b>	54	8	106	<b>14</b>
2	Thammasat U.	Bangkok	18	<b>3</b>	12	<b>2</b>	7	1	37	<b>6</b>
3	Chiang Mai U.	Chiang Mai	13		3		18	1	34	<b>1</b>
4	Kasetsart U.	Bangkok	8		1		22	2	31	<b>2</b>
5	Mahidol U.	Bangkok	3		1	<b>1</b>	15	2	19	<b>3</b>
6	King Monkut's Insti.of Tech. Ladkrabang	Bangkok	3		0		10		13	
7	King Monkut's U. of Tech. Thonburi	Bangkok	0		0		9		9	
8	Srinakharinwirot U.	Bangkok	3		1		4		8	
9	Silpakorn U.	Nakhonpathom	5		0		2		7	
10	Assumption University	Bangkok	4		2		0		6	
11	Burapha U.	Chonburi	4		1	<b>1</b>	1		6	<b>1</b>
12	Khon Kaen U.	Khon Kaen	3		0		2		5	
13	Naresuan U.	Phitsanulok	3	<b>1</b>	0		1		4	<b>1</b>
14	Ramkhamhaeng U.	Bangkok	3		1	<b>1</b>	0		4	<b>1</b>
15	Asian Institute of Technology	Pathumthani	0		0		3	1	3	<b>1</b>
16	Chiang Mai Rajabhat U.	Chiang Mai	3		0		0		3	
17	King Monkut's U. of Tech. North Bangkok	Bangkok	0		0		2		2	
18	Payap U.	Chiang Mai	2		0		0		2	
19	Prince of Songkla U.	Songkla	1		0		1		2	
20	Rangsit U.	Pathumthani	2		0		0		2	
21	Thai-Nichi Institute of	Bangkok	1		0		1		2	
22	Ubon Ratchathani U.	Ubon	1		0		1		2	
23	U. of the Thai Chamber of Commerce	Bangkok	1		1		0		2	
24	Imperial College London	Overseas (UK)	0		0		2	1	2	<b>1</b>
25	U. of Tsukuba	Overseas	2	<b>2</b>	0		0		2	<b>2</b>
26	Bangkok U.	Pathumthani	0		1		0		1	
27	Mae Fah Luang U.	Chiang Rai	0		1		0		1	
28	Maejo U.	Chiang Mai	0		1		0		1	
29	Rajamangala U. of Tech. Krungthep	Bangkok	1		0		0		1	
30	Stamford International U.	Petchaburi	0		1		0		1	
31	Thaksin U.	Songkla	0		1		0		1	
32	Aomori Chuo Gakuin U.	Overseas	0		1		0		1	
33	Bournemouth U.	Overseas (UK)	0		1		0		1	
34	Chuo Gakuin U.	Overseas	0		1		0		1	
35	Hitotsubashi U.	Overseas	0		1		0		1	
36	Nanzan U.	Overseas	0		1		0		1	
37	Ritsumeikan Asia Pacific U.	Overseas	1	<b>1</b>	0		0		1	<b>1</b>
38	U. of Arizona	Overseas (USA)	0		0		1		1	
39	U. of Wisconsin-Milwaukee	Overseas (USA)	1	<b>1</b>	0		0		1	<b>1</b>
40	U. of Amsterdam	Overseas (Holand)	1	<b>1</b>	0		0		1	<b>1</b>
	<b>Total</b>		<b>126</b>	<b>12</b>	<b>46</b>	<b>8</b>	<b>156</b>	<b>16</b>	<b>328</b>	<b>36</b>

R1A: 研究留学生 人文社会科学系①(法学、政治学、教育学、心理学、社会学、言語学、文学、歴史学、音楽、芸術 など)

R1B: 研究留学生 人文社会科学系②(経済学、商学、ビジネス など)

R2: 研究留学生 自然科学系



## 別添資料3:

**Numbers of Applicants by School (出身高校別の応募者数)**  
 Undergraduate Students 2014(学部留学生)  
 College of Technology Students 2014 (高等専門学校留学生)  
 Specialized College of Technology Students 2014(専修学校留学生)

No.	School Name	Province	*O-NET 成績順位	日本語センター校	U1	合格者	U2	合格者	C	合格者	S	合格者	Total	合格者
1	Triam Udom Suksa	Bangkok	2		78	6	134	10	4	2	7	6	223	24
2	Mahidol Wittayanusorn	Nakonprathom	1		4	1	53	2	1	1	0		58	4
3	Montfort Collage	Chiang Mai	51		2		26		0		0		28	
4	Suankualrb Wittayalai School	Bangkok	21		0		23	3	0		0		23	3
5	Traimudomsuksa Pattanakarn School	Bangkok	43		4		17		0		0		21	
6	Chulalongkorn University Demonstration School	Bangkok	5		8	1	11		0		1	1	20	2
7	Samsenwittayalai	Bangkok	19		1		19		0		0		20	
8	The Prince Royal's College	Chiang Mai	24		2	1	15	1	1		0		18	2
9	Saint Gabriel's College	Bangkok	33		1		16		0		0		17	
10	Yothinburana	Bangkok	66		3		14	1	0		0		17	1
11	Rayongwittayakom School	Rayong			5		5		2		4		16	
12	Satriwithaya School	Bangkok	17		3		9		0		1		13	
13	Kasetsart University Laboratory School	Bangkok	56		1		12		0		0		13	
14	Khonkaenwittayayon	Konkhaen			1		12		0		0		13	
15	Patumwan Demonstration School	Bangkok	14		9		4		0		0		13	
16	Bodindecha (sing singhasene)	Bangkok	28		1		10		1	1	0		12	1
17	Naresuan University Secondary Demonstration School	Pitsanalok	9		0		11		0		0		11	
18	Saint Joseph Bangna	Bangkok	71		2		9		0		0		11	
19	Thammasatklongluangwittayakhom school	Prathumthani		○	2		4		5		0		11	
20	Traimudomsuksanomklao school	Bangkok	47		1		10		0		0		11	
21	Udonpittayanokoon	Udonthani		○	1		9		1	1	0		11	1
22	Bodindecha (Sing Singhaseni) 2	Bangkok	80		1		9		0		0		10	
23	Demonstration school of Ramkhamhaeng University	Bangkok			0		3		1		6		10	
24	Chiang Mai University Demonstration School	Chiang Mai	13		2		7		1		0		10	
25	Phiriyalai School Phrae	Phrae			0		8		0		0		8	
26	Suankularb Wittayalai nonthaburi School	Nonthaburi	77	○	2		5		0		1		8	
27	Uttradit Daruni School	Uttradit			1		1		0		6		8	
28	Sura Nari Wittaya	Nakornratchasima			1		0		0		7		8	
29	Demonstration School of Suan Sunandha Rajabhat Univeristy	Bangkok	49		1		6		0		0		7	
30	Pre-Engineering Thai-German School of KMUTNB	Bangkok			0		1		6		0		7	
31	Strisri Nan School	Nan			2		5		0		0		7	
32	Pibul Wittaya School	Lopburi		○	1		0		0		6		7	
33	Srisawat Wittayakarn Nan School	Nan			4		2		0		0		6	
34	Debsirin	Bangkok	64		2		3		0		1		6	
35	Demonstration School of Nakhonpathom Rajabhat University	Nakhonpathom	7		0		5		1		0		6	
36	Mater Dei Institute	Bangkok	22		0		6		0		0		6	

No.	School Name	Province	*O-NET 成績 順位	日本語 センター校	U1	合格者	U2	合格者	C	合格者	S	合格者	Total	合格者
37	Streesamutprakan School	Samutprakan	74		0		6		0		0		6	
38	Thidanukhro	Songkhla	15		0		6	1	0		0		6	1
39	Princess Chulaborn's Collage Phitsanulok	Phitsanulok			0		5		0		1		6	
40	Princess Chulaborn's college Pathumthani	Prathumthani	85		0		4		2	1	0		6	1
41	Mahasarakham University Demonstration School	Manasarakam	93		2		3		0		0		5	
42	Princess Chulaborn's College Satun	Satun	39		1		4		0		0		5	
43	Protpittatapayat School	Bangkok			1		4		0		0		5	
44	Suksanari School	Bangkok	25		2		1		0		1		4	
45	Demonstration School of Sri Nakharinwirot University Prasarnmit (Secondary)	Bangkok	37		3	1	1		0		0		4	1
46	Bunyawat Wittalai School	Lampang	45		1		3		0		0		4	
47	Hatyaiwittayalai	Songkhla	46		2		2		0		0		4	
48	Joseph Upatham School	Bangkok			0		4		0		0		4	
49	Mahaputaram Girl's School	Bangkok	87		0		4		0		0		4	
50	Rachineeburana	Nakornprathom			3		0		1		0		4	
51	Ratchasima Witthayalai	Nakornratchasima		○	2		2		0		0		4	
52	satrinontaburi school	Nonthaburi			0		4		0		0		4	
53	Satriwittaya 2	Bangkok	81		2		2		0		0		4	
54	St. Joseph convent schol	Bangkok	20		1		3		0		0		4	
55	Surasakmontree School	Bangkok			1		3		0		0		4	
56	Thatnaraiwittaya School	Lopburi			0		0		4		0		4	
57	Wat Suthiwararam School	Bangkok			0		1		3		0		4	
58	Nawaminthrachinuthit Satriwittaya Phuttamontol School	Nakornprathom			0		1		0		3		4	
59	Takphittayakhom School	Tak			0		1		0		2	1	3	1
60	Benchamaratransarit	Chachengchao			1		1		0		1	1	3	1
61	Assumption Convent	Bangkok	36		1		2		0		0		3	
62	Benchama Maharat	Ubonratchathani		○	0		3		0		0		3	
63	Chalermkwansatree School	Pitsanalok	62	○	2		1		0		0		3	
64	Chonrasdornumrung School	Bangkok			0		3		0		0		3	
65	Darun Sikkhalai School - KMUTT	Bangkok	8		1		2		0		0		3	
66	Horwang	Bangkok	32		1		2		0		0		3	
67	Maneesawet Uppatham School	Prachinburi			0		0		3		0		3	
68	PSU Wittayanusorn	Songkhla	6		0		3		0		0		3	
69	Pua School	Nan			2		1		0		0		3	
70	sacred heart convent	Bangkok			0		3		0		0		3	
71	Samakhi Wittayakom School	Chiang Rai	89	○	0		1		0		2		3	
72	Sarawithaya school	Bangkok		○	0		3		0		0		3	
73	Srinakarinvirote University	Bangkok			1		2		0		0		3	
74	Wat Prasrimahadhat Secondary Demonstration School Phranakhon Rajabhat University	Bangkok	35		1		0		0		2	1	3	1
75	Chiang Rai Municipality School	Chiang Rai			1		0		0		2		3	

No.	School Name	Province	*O-NET 成 績順位	日本語 セ ンター校	U1	合格者	U2	合格者	C	合格者	S	合格者	Total	合格者
76	Kanchanapisek Wittayalai Uthaitani School	Uthaitani			0		0		0		3		3	
77	Pha-Inplang Wittaya School	Loei			0		0		0		2		2	
78	Chulalongkorn University	Bangkok			0		2		0		0		2	
79	Bangkok Christian College	Bangkok	99		0		2		0		0		2	
80	Benchamarachalai	Bangkok	67		0		1		0		1		2	
81	Chiang Mai University	Chiang Mai			0		2		0		0		2	
82	Chitralada School	Bangkok	12		0		1		0		1		2	
83	Kantarawichai School	Srisaket			0		0		1		1		2	
84	Khema Siri Memorial School	Bangkok	63		0		2		0		0		2	
85	King Mongkut's University of Technology North Bangkok	Bangkok			0		1		1		0		2	
86	Laboratory School of Phranakorn Si Ayutthaya University	Ayudhaya	10		0		2		0		0		2	
87	Matthayom Watnairong	Bangkok	97		0		1		1		0		2	
88	Piboonbumpen Demonstration School, Burapha University	Chonburi			0		2		0		0		2	
89	Princess Chulabhorn's College Chonburi	Chonburi	98		1	1	1		0		0		2	1
90	Princess Chulabhorn's Collage Chiangrai	Chiang Rai	61		0		2		0		0		2	
91	Rajamangala University of Technology Lanna	Chiang Mai			0		0		2		0		2	
92	Rajini School	Bangkok	27		0		2		0		0		2	
93	Roi-Et Wittayalai School	Roi-Et			1		1		0		0		2	
94	Ruamrudee International School	Bangkok			0		2		0		0		2	
95	Saint Dominic School	Bangkok			1		1		0		0		2	
96	Saipanya Rangsit School	Bangkok			0		0		0		2	1	2	1
97	Samutprakan School	Samutprakan			0		2		0		0		2	
98	Satri si suriyothai School	Phuket	88		0		2		0		0		2	
99	Singburi school	Singburi			0		2		0		0		2	
100	Suankularb Wittayalai Rangsit	Pratumthani	83		0		2		0		0		2	
101	The demonsatration of thepsatri rajabhat University	Lopburi			1		1		0		0		2	
102	Visuttharangsi School	Kanchanaburi			1		1		0		0		2	
103	Watkhemapiratarom School	Nonthaburi			0		2		0		0		2	
104	Chitralada School & Non-formal and Informal Education Center for Special Target Group	Bangkok			1	1	0		0		0		2	1
105	Sri-Ayudhya School	Bangkok		○	0		0		0		2	1	2	1
106	Watpapradoo School Rayong	Rayong			0		0		0		2	1	2	1
107	Nawama Rachanusorn School	Nakornayok			0		0		0		1		1	
108	Suratthani School	Suratthani			0		0		0		1		1	
109	Benjamarachutit Ratchaburi School	Ratchaburi			0		0		0		1		1	
110	Kaennakhon Witthayalai School	Konkhaen			0		1		0		0		1	
111	Kanaratbumrung Pathumthani School	Pathumthani			0		1		0		0		1	
112	Rittiyawannalai	Bangkok			0		1		0		0		1	
113	Saint John's School	Bangkok			0		0		0		1		1	
114	Benchamatheputhit School	Petchburi			0		0		1		0		1	

No.	School Name	Province	*O-NET 成績 順位	日本語 センター校	U1	合格者	U2	合格者	C	合格者	S	合格者	Total	合格者
115	Demonstration Psu School	Songkhla	23		0		1		0		0		1	
116	Demonstration school of Khon Kaen University (Modindaeng)	Khon Kaen	65		0		1		0		0		1	
117	Japan Aviation High School	Japan			1	1	0		0		0		1	1
118	Kanlayaneesithammarat	Nakhonsrithammarat			0		1		0		0		1	
119	Kawilawittalai School	Chiang Mai			0		1		0		0		1	
120	Khamtaklaratchaprachasongkroh School	Sakhonakorn			0		0		0		1		1	
121	Klaeng Wittayasathaworn School	Rayong			0		0		1		0		1	
122	Nakhonratchasima Vocational College	Nakarachasima			0		0		0		1		1	
123	Nakhonsawan School	Nakhonsawan	57		0		1		0		0		1	
124	Nangrong School	Buriram			0		1		0		0		1	
125	Nareerat School	Phrae			1		0		0		0		1	
126	Nawamintharachinuthit Suankularb	Bangkok			0		1		0		0		1	
127	Nawaminthrachinuthit Bodindecha School	Bangkok	92		0		1		0		0		1	
128	Nawaminthrachinuthit Satree Wittaya 2	Bangkok			0		0		1		0		1	
129	Nawamintrachinuthit Benjamarachalai School	Bangkok			0		1		0		0		1	
130	Pasang Industrial Community College	Lampoon			0		0		1		0		1	
131	Petpittayakom School	Petchaboon			0		0		0		1		1	
132	Phayao Pittayakom School	Phayao			0		1		0		0		1	
133	Potisan Pittayakom	Bangkok	73		0		1		0		0		1	
134	Pramandanijjanukroah School	Bangkok			0		1		0		0		1	
135	Princess Chulabhorn's College Mukdaharn	Mukdaharn	38		0		0		0		1	1	1	1
136	Rajamangala University of Technology Rattanakosin	Bangkok			1		0		0		0		1	
137	Rajinibon school	Bangkok	40		0		1		0		0		1	
138	Regina Coeli Collage	Chiang Mai	90		0		1		0		0		1	
139	Rittiyawannalai 2 School	Bangkok			0		0		1		0		1	
140	Saengthong Vitthaya	Songkhla	72		0		1		0		0		1	
141	Sainampeung school	Bangkok			0		1		0		0		1	
142	Saraburiwitthayakhom school	Saraburi			0		1		0		0		1	
143	Sarasas Wited Romklao School	Bangkok			0		0		0		1		1	
144	Satit bilingual of rangsit university	Bangkok			0		1		0		0		1	
145	Satree Setthabut Bumpen School	Bangkok			0		0		0		1		1	
146	Satreesiriket School	Srisaket			0		0		0		1		1	
147	Satriangthong School	Ang-thong			0		1		0		0		1	
148	Satrirachinuthit	Udonthani			0		1		0		0		1	
149	Seekan (Wattananunuppathum)	Bangkok			0		0		1		0		1	
150	Sisaketwittayalai	Sisaket			0		1		0		0		1	
151	Sriphuatta School	Bangkok			1		0		0		0		1	
152	St.Francis Xavier School	Bangkok	84		0		1		0		0		1	
153	Suanbunyopatum Lamphun School	Lamphun			0		1		0		0		1	
154	surawithayakarn school	Nakornratchasima			0		1		0		0		1	

No.	School Name	Province	*O-NET 成 績順位	日本語 セ ンター校	U1	合格者	U2	合格者	C	合格者	S	合格者	Total	合格者
155	The Demonstration School Of Silapakorn University	Nakornprathom	34		1		0		0		0		1	
156	Taweethapisek School	Bangkok			0		0		0		1		1	
157	Thewphaingarm school	Bangkok			0		1		0		0		1	
158	U-Thong school	Supanburi			0		1		0		0		1	
159	Wittayanukulnaree School	Petchaboon			0		0		0		1		1	
160	Yuppharai Wittayalai	Chiang Mai	75		0		1		0		0		1	
<b>Total</b>					189	13	642	18	48	6	81	14	961	51

U1:学部留学生(人文社会科学系) U2:学部留学生(自然科学系) C:高等専門学校留学生 S:専修学校留学生

\*O-NET (Ordinary National Educational Test -タイの全ての高校3年生が受ける学力テスト) 成績: 2012年度8科目平均点 TOP 100

8科目: 科学、数学、タイ語、英語、社会、体育、保健、Work Education。



別添資料4:

Top 100 Thai Schools of 2013 Based on O-NET Scores in 8 Subjects;

Sciences, Maths, Thai Language, English, Social Studies, Health and Physical Education, Work Education

O-NET(Ordinary National Educational Test)の成績によるTOP100 2012年度8科目の平均点のランキング  
O-NET =タイの全ての高校3年生が受ける学力テスト

Ranking	School name	Province	Average score
1	Mahidol Witthayanusorn School	Nakhon Pathom	68.58
2	Triam Udom Suksa School	Bangkok	64.07
3	Baan Rienn "Simsomboonpol" School	Chanthaburi	61.91
4	Princess Chulabhorn's College Trang	Trang	58.41
5	Chulalongkorn University's Demonstration School, Secondary	Bangkok	57.63
6	Prince of Songkla University's Wittayanusorn School	Songkla	57.58
7	Demonstration School of Rajabhat University, Nakhon Pathom	Nakhon Pathom	57.39
8	Darunsikkhalai School for Innovative Learning, King Mongkut's University of Technology Thonburi	Bangkok	56.88
9	Demonstration School of Naresuan University	Pitsanulok	55.34
10	Demonstration School of Pra Nakorn Si Ayuthaya Rajabhat Univeristy	Ayutthaya	54.84
11	Burana Ramluek School	Trang	54.43
12	Chitralada School	Bangkok	53.66
13	Demonstartion School of Chiaengmai University	Chiang Mai	53.46
14	Demonstartion School of Sri Nakharintarawiroth University Pathumwan	Bangkok	53.30
15	Thidanukhrao School	Songkla	53.25
16	Plearn Pattana School	Bangkok	53.20
17	Satri Wittaya School	Bangkok	53.19
18	Demonstration School of Tesaban Petch Jarik	Nakhon Si Thammarat	52.84
19	Samsen Wittayalai School	Bangkok	52.22

Ranking	School name	Province	Average score
20	St. Joshep Convent School	Bangkok	51.93
21	Suan Kularb Wittayalai School	Bangkok	51.43
22	Mater Dei Wittayalai School	Bangkok	51.39
23	Demonstration School of Prince of Songkla University	Pattani	51.30
24	The Prince Royal's College	Chiang Mai	51.20
25	Suksanaree School	Bangkok	51.16
26	Demonstration School of Khon Kaen University	Khon Kaen	51.13
27	Rajini School	Bangkok	51.02
28	Bodin Decha (Sigha Sighaseni) School	Bangkok	51.02
29	Don Bosco School	Udon Thani	50.93
30	Rungaroon School	Bangkok	50.65
31	Electrical Engineer School, Provincial Electrical Authority	Bangkok	50.55
32	Hor Wang School	Bangkok	49.93
33	St. Gabriel's College	Bangkok	49.78
34	Demonstration School of Silpakorn University	Nakhon Pathom	49.49
35	Demonstration School of Pra Nakhon Rajabhat University	Bangkok	49.43
36	Assumption Convent School	Bangkok	49.36
37	Demonstration School of Sri Nakharinwirot University Prasarnmit (Secondary)	Bangkok	49.34
38	Princes Chulabhorn's College, Mokdaharn	Mukdaharn	49.31
39	Princess Chulabhorn's College, Satun	Satun	49.29
40	Rjini Bon School	Bangkok	49.24
41	Armed Forces Academies Preparatory School	Nakhon Nayok	49.19

Ranking	School name	Province	Average score
42	Sukol Theerawit School	Nakhon Pathom	48.97
43	Triam Udom Suksa Pattanakarn School	Bangkok	48.82
44	Assumption College	Bangkok	48.74
45	Bunyawas Wittayalai School	Lampang	48.56
46	Hadyai Wittayalai School	Songkla	48.52
47	Traim Udom Suksa Nom Klao School	Bangkok	48.50
48	Amnuaysilp School	Bangkok	48.31
49	Demonstartion School of Rajabhat Suan Sunandha University	Bangkok	48.24
50	Mareewit School	Chonburi	48.14
51	Monford College	Chiang Mai	48.09
52	Traim Udom Suksa Nomklao Nakhon Ratchasima School	Nakhon Ratchasima	48.02
53	Amartayakul School	Bangkok	48.02
54	Nakprasith School	Nakhon Pathom	47.79
55	Mariwit Sattaheeb School	Chonburi	47.76
56	Demonstration School of Kasetsart University	Bangkok	47.69
57	Nakhonsawan School	Nakhon Sawan	47.51
58	Wattana Wittayalai School	Bangkok	47.45
59	Benjamarachutit School, Nakhon Si Thammarat	Nakhon Si Thammarat	47.43
60	Satit Pattana School	Bangkok	47.42
61	Princess Chulabhorn's College, Chaing Rai	Chaing Rai	47.23
62	Chalermkwansatri School	Pitsanulok	47.20
63	Khemasiranussorn School	Bangkok	47.01

Ranking	School name	Province	Average score
64	Dhepsirin School	Bangkok	46.97
65	Demonstration School of Khon Kaen University, Moodindaeng	Khon Kaen	46.90
66	Yothinburana School	Bangkok	46.83
67	Benjama Rajalai School	Bangkok	46.81
68	Kanjanapisek Wittayalai School	Nakhon Pathom	46.76
69	Princess Chulabhorn's College, Nakhon Srithammaraj	Nakhon Si Thammarat	46.54
70	Phuket Wittayalai School	Phuket	46.52
71	St. Joseph Bangna School	Samut Prakarn	46.43
72	Saengthong Wittaya School	Songkla	46.39
73	Pothisarn Pittayaporn School	Bangkok	46.30
74	Satri Samutprakarn School	Samut Prakarn	46.25
75	Yuppharai Wittayalai School	Chiang Mai	46.25
76	Princess Chulabhorn's College, Petchburi	Petchburi	46.06
77	Suankularb Wittayalai Nonthaburi School	Nonthaburi	46.03
78	Chonprathanwittaya School	Nonthaburi	46.01
79	Surajthani School	Surat Thani	46.00
80	Bodindeja (Singh Sinhaseni) 2 School	Bangkok	46.00
81	Satri Wittaya 2 School	Bangkok	45.96
82	St. Francis Xavier School	Nonthaburi	45.94
83	Suan Kularb Wittayalai School, Rangsit	Pathumthani	45.90
84	St. Francis Xavier Convent School	Bangkok	45.81
85	Princess Chulabhorn's College, Pathumthani	Pathumthani	45.70

Ranking	School name	Province	Average score
86	Prommanusorn Petchburi School	Petchburi	45.60
87	Satri Mahaprutharam School	Bangkok	45.60
88	Satri Srisuriyothai School	Bangkok	45.57
89	Samakhithamm Wittayakom School	Chiang Rai	45.55
90	Rigina Coeli College	Chiang Mai	45.53
91	Benjamarachutit School, Ratchaburi	Ratchaburi	45.49
92	Nawamintarachinutit Bodindecha School	Bangkok	45.43
93	Demonstration school of Mahasarakam University	Mahasarakam	45.37
94	Wachirawut Wittayalai School	Bangkok	45.36
95	Secondary Demonstration School of Rajabhat Univerity Chao Phya	Bangkok	45.31
96	Assumption College, Samutprakarn	Samut Prakarn	45.28
97	Mattayom Wat Nai Rong School	Bangkok	45.22
98	Princess Chulabhorn's College, Chonburi	Chonburi	45.18
99	Bangkok Christian Wittayalai School	Bangkok	45.14
100	St. Joseph Tippawan School	Samut Prakarn	45.13

## 別添資料 5 :

## 日本語主専攻課程(学士号)を開講している高等教育機関

(2010年 国際交流基金バンコク日本文化センター調べ)

	Name of University (大学名)	Faculty (学部)	Provinces	備考
	【中部タイ】			
1	Kasetsart U.	人文学部日本語学科	Bangkok	
2	King Monkut's Insti.of Tech. Ladkrabang	産業教育学部日本語学科	Bangkok	
3	Srinakharinwirot U.	人文学部日本語学科	Bangkok	
4	Silpakorn U.	文学部日本語学科	Nakhonpathom	
5	Thammasat U.	教養学部日本語学科	Pathum Thani	* 大学院日本研究科修士課程あり。
6	Thammasat U.	東アジア研究所	Pathum Thani	
7	Chulalongkorn U.	文学部日本語学科	Bangkok	* 文学部日本語先行専攻修士課程（日本語学コース、文学コース）あり。 * 外国語としての日本語修士課程（日本語教師養成プログラム）あり。 * 文学部文学・比較文学学科博士課程あり。
8	Suan Sunandha Rajabht U.	人文社会学部日本語学科	Bangkok	
9	Thepsatri Rajabht U.	人文社会学部日本語学科	Lob Buri	
10	Burapha U.	人文社会学部日本語学科	Chonburi	
11	Burapha U.	教育学部日本語教育プログラム	Chonburi	* 2012年より学生募集を停止中
12	Chandrakasem Rajabht U.	人文社会学部 ビジネス日本語学科	Bangkok	
13	Bansomdej Chaopraya Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Thon Buri	
14	Phranakhon Si Ayutthaya Rajanhat U.	人文社会学部日本語学科	Phranakhon Si Ayutthaya	
15	Rajamangala U. of Tech. Krungthep	教養学部外国語学科日本語専攻	Bangkok	
16	Rajamangala U. of Tech. Rattanakosin	教養学部外国語学科日本語専攻	Nakhon Pathom	
17	Rajabhat Rajanagarind U.	人文社会学部日本語学科	Chachoengsao	
18	Assumption U.	文学部ビジネス日本語学科	Bangkok	* 私立
19	Siam U.	教養学部日本語コミュニケーション学科	Bangkok	* 私立
20	Dhurakij Pundit U.	人文科学部ビジネス日本語学科	Bangkok	* 私立
21	U. of the Thai Chamber of Commerce	人文学部日本語学科	Bangkok	* 私立



## (2010年 国際交流基金バンコク日本文化センター調べ)

	Name of University (大学名)	Faculty (学部)	Provinces	備考
22	Rangsit U.	教養学部日本語学科	Pathumthani	* 私立
	【北部タイ】			
23	Chiang Mai U.	人文学部日本語学科	Chiang Mai	* 人文学部日本研究センター修士課程(日本研究コース)あり。
24	Naresuan U.	人文学部東洋言語学科日本語科	Phitsanulok	* 大学院日本研究科修士課程あり。
25	U. of Phayao	教養学部日本語学科	Phayao	
26	Uttaradit Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Uttaradit	
27	Chian Mai Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Chiang Mai	
28	Chian Rai Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Chiang Rai	
29	Pibulsongkram Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Phitsanulok	
30	Payap U.	人文学部日本語学科	Chaing Mai	* 私立
31	The Far Eastern U.	教養学部 ビジネス日本語学科	Chaing Mai	* 私立
	【東北部タイ】			
32	Ubon Ratchathani U.	教養学部日本語学科	Ubon Ratchathani	
33	Khon Kaen U.	人文社会学部 日本語プログラム	Khon Kaen	
34	Khon Kaen U.	教育学部日本語教育課程	Khon Kaen	
35	Mahasarakham U.	人文社会学部日本語学科	Maha Sarakham	
36	Sisaket Rajabhat U.	教養理学部人文社会学部 日本語プログラム	Sisaket	
37	Nakhon Ratchasima Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Nakhon Ratchasima	
	【南部タイ】			
38	Thaksin U.	人文社会学部日本語学科	Songkla	
39	Prince of Songkla U.	人文社会学部日本語学科	Pattani	
40	Nakhon Si Thammarat Rajabhat U.	人文社会学部日本語学科	Nakhon Si Thammarat	